

SOCER TOCHIGI COMMUNICATION MAGAZINE

SOCER TOCHIGI

(公社) 栃木県サッカー協会事務局

〒320-0857 宇都宮市鶴田2-2-10 鈴運メンテック(株)ビル2F

TEL 028-688-8411 / FAX 028-688-8400

URL <http://www.tfa.or.jp/>

vol.103

2023年10月31日発行



役員改選

第九代会長に橋本健一氏就任

歴代会長

初代会長	佐々木 等	(1946年～1949年)
第二代会長	大平 祐三郎	(1950年～1957年)
第三代会長	野沢 寅	(1958年～1963年)
第四代会長	北山 寛	(1964年～1968年)
第五代会長	森山 欽司	(1969年～1987年)
第六代会長	森山 真弓	(1987年～2009年)
第七代会長	石崎 忠利	(2010年～2016年)
第八代会長	星野 務	(2017年～2022年)

※カッコ内は任期

2023年9月より公式SNSの運用開始!!

栃木県サッカー協会の取り組みや行事などを発信

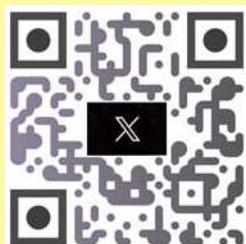
Instagram



Facebook



X



FAIR PLAY PLEASE

フェアプレイを心がけましょう



contents



事務局より

新会長就任あいさつ	3
2023年度 役員	4
NEZASカップ第28回栃木県サッカー選手権大会	5
第103回天皇杯全日本サッカー選手権大会	6
特別国民体育大会サッカー競技関東ブロック大会結果	7

栃木サッカーカラーブ

栃木SC U-18について	8
---------------	---

第1種委員会・社会人連盟

栃木県サッカー協会理事並びに第1種委員長就任について	9
6年目の挑戦へ！（栃木シティフットボールクラブ）	10
Plus Ultra（ヴエルフェ矢板）	10
栃木シティU-25の戦い（栃木シティフットボールクラブU-25）	11
第30回全国クラブチームサッカー選手権大会関東大会を終えて（リストア宇都宮）	12
18年振り関東2部への参入（作新学院大学）	12
特別国民体育大会 関東ブロック大会（成年男子）	13

第2種委員会・高校連盟

高校連盟より	14
令和5年度第66回関東高校サッカー大会に出場して（白鷗足利高等学校）	15
第66回関東高等学校サッカー大会に出場して（佐野日本大学高等学校）	16

第3種委員会・クラブユース連盟

日本クラブユース（U-15）サッカー選手権（関東大会・全国大会）を戦って	16
2023年度大会結果	17

第4種委員会・少年連盟

QUALIER CUP 第9回栃木県U-12サッカー大会	17
2023フジパンカップ第47回関東U-12サッカー大会in東京・山梨	18

女子委員会・連盟

デフサッカーW杯女子の部 文星女高出の伊藤選手が出場	19
----------------------------	----

シニア委員会・連盟

JFA第11回全日本O-40サッカー大会関東地区予選会結果	20
JFA第22回全日本O-50サッカー大会関東地区予選会結果	21
KTFA第18回関東O-60サッカー大会結果	22
KTFA第11回O-70関東サッカー選手権大会結果	23

フットサル委員会・連盟

栃木県フットサル連盟理事長 山口雄二氏が新たに就任	24
8年ぶり本県開催の関東女子選抜大会 2年連続の全国出場ならず	24
U-18チャンピオンズカップファンタジスタ栃木が初代王座	24
U-12バーモントカップFC VALONが2連覇	25

技術強化委員会

燃ゆる感動 かごしま国体へ向けた栃木県トレセンU16活動報告	26
国体活動報告	28

審判委員会

にらさきサッカーフェスティバルに参加して	30
関東サッカー協会審判研修会に参加して	31
国体関東ブロック予選に参加して	32
特別国民体育大会関東ブロック大会（成年男子）に参加して	32
レフェリーアカデミーの紹介	33

グラスルーツ委員会

グラスルーツ委員会より	35
2023年度前期 フェスティバル関連事業報告	36
巡回指導報告	37
2023キッズリーダー養成講習会報告	38

医事委員会

蘇生講習会への取り組みについて	39
-----------------	----

賛助会員・協賛

2023年度賛助会員ご芳名	40
---------------	----

事務局より

新会長就任あいさつ

公益社団法人栃木県サッカー協会
会長 橋本 健一



この度、役員改選において、前任の星野務会長の後任として会長に選任されました橋本です。私は教育関係に長年携わっており、高校に勤務している一時期にはサッカーチームの顧問をしておりました。今回、サッカー協会に携われることは喜びであると同時に、その責任の重大さに身の引き締まる思いです。微力ではございますが、栃木県のサッカー普及発展とスポーツの魅力発信に努めて参る所存です。どうぞよろしくお願いします。

さて、近年は、先輩諸氏が築き上げてきた業績を引継ぎ、「TFAゴールプラン2022」に掲げた2022年とちぎ国体での活躍等の遂行に邁進してきました。とちぎ国体や障害者スポーツ大会では、多くの関係者のご協力で、競技成績はもとより数々の成果を残すことができました。この場をお借りしまして感謝申し上げます。

今後は、新たに国体のレガシーを活かしながら10年後の五つの達成目標を具現化した、TFAミッションファイル「国体プラス10 2032」を皆様のお力を結集して進めていく所存です。

- ① サッカーファミリーの拡大
- ② 本県代表の活躍
- ③ 組織の確立
- ④ J1チーム、その他チーム・団体との協働
- ⑤ サッカー施設の充実

日本サッカー界はコロナ危機を何とか乗り越えて、アフターコロナへと舵を切りました。本協会も同様に多くの課題を解決するため、我々が掲げたTFAミッションファイルの取り組みを急がなければなりません。

まずは、サッカーファミリーの拡大です。グラスルーツの裾野を広げる普及活動を進め、老若男女のプレーヤー、そして応援しているご家族や地域のみなさんがサッカーを安心、安全に楽しめる

ための環境づくりが大切です。競技人口増加を期待できるシニア・女子サッカーの普及・発展の取り組みも急務でしょう。

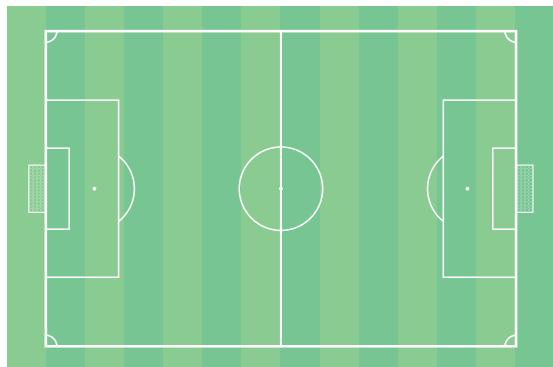
また、組織の確立も進めていかなければなりません。特に、県民に今まで以上に信頼される組織になるため、ガバナンスの強化やコンプライアンスの徹底の継続強化を図らなくてはなりません。地域サッカー協会・市町サッカー協会、各サッカーチームとの連携を強固にすることも重要です。

更には、本県を代表して世界や日本で活躍する選手や審判等の輩出です。子供達に大きな夢と希望を与え、サッカー人口増加の可能性も考えられます。

最後になりますが、サッカーは、人を隔てようとするすべての境界を越え、人をつないでいく力を持ち、誰でも、いつでも、どこでもサッカーボール一つで、世代を超えたつながりができるスポーツです。

現在、本県ではサッカーの本来の魅力である、「人づくり」「健康づくり」「仲間づくり」等々が多くの方々に受け入れられ、県内約22,000人のサッカーファミリーが登録しています。休日に限らず県内いたるところで、子どもたちをはじめとするサッカープレーヤーの爽やかな汗と元気な声が飛び交っています。

このような状況を踏まえ更なる発展と充実を目指して、協会関係者はもとより登録チーム・選手・審判など全てのサッカーファミリーと課題を共有して、楽しく前向きに話し合えるよう心掛けTFAミッションファイル「国体プラス10 2032」を進めて参りましょう。今後とも、一層のご支援・ご協力をお願いいたします。



2023年度 公益社団法人栃木県サッカー協会 役員

2023/6/14

名誉会長 石崎忠利

最高顧問 星野務

顧問 内野直忠 山野井暉 手塚操
岩原克彦 室井和比古 佐藤俊介

会長 橋本健一

副会長 糸井朗(顕彰) 橋本大輔(Jクラブ)
中村千浩 鈴木武明(規律フェアプレー)

専務理事 鈴木勇

常務理事 小田林宏至(財務) 鈴木篤
福田治(シニア・事業) 川上栄二

理事	堀田利明(第1種)	臼井紀仁(第2種)
	御子貝和亮(第3種)	久々宇勤(第4種)
	徳田明義(女子)	石田浩之(クラブユース)
	(福田治)(シニア・事業)	諏訪英司(総務)
	中山貴之(財務・事務局長)	伊奈川正通(技術強化)
	石塚雅一(フットサル)	羽石剛(審判)
	福田芳男(記録広報)	飯島裕生(医事)
	郡司陸成(地区)	手塚貴子(グラスルーツ)
	種倉寛(ユースダイレクター)	石田利雄(マッチコミッショナー)
	櫻井誠	

監事 川村壽文 関根則次

NEZASカップ 第28回県サッカー選手権大会

第103回天皇杯県予選を兼ねた「NEZASカップ 第28回県サッカー選手権大会」の準決勝2試合を4月23日に県グリーンスタジアムで開催。

準決勝には栃木シティFC（関東1部）、ヴェルフェ矢板（関東2部）、栃木シティFC U-25（第1種社会人代表）、作新学院大学（関東大学2部）が出場。

作新学院大学対栃木シティFC U25は、4-0で作新学院大学が快勝。栃木シティFC対ヴェルフェ矢板は、後半にヴェルフェ矢板が2点を取り返すものの、6-2で栃木シティFCが勝利した。

作新学院大学が4大会ぶり、栃木シティが13大会連続の決勝進出となった。



(栃木シティFC対ヴェルフェ矢板)

▽準決勝

第1試合

作新大学

4 (1-0, 3-0) 0
栃木シティFC U-25

第2試合

栃木シティFC

6 (2-0, 4-2) 2
ヴェルフェ矢板



決勝は5月7日に県グリーンスタジアムで開催された。準決勝を勝ち抜いた作新学院大学と栃木シティFCの対戦となり、栃木シティFCが前半に3点、後半に5点を決め、大量得点で栃木シティFCが作新学院大学を破って13回目の天皇杯出場を決めた。

栃木シティFCは5月20日の天皇杯1回戦、県グリーンスタジアムで、愛知県代表のFCマルヤス岡崎と対戦することになった。

▽決勝

栃木シティFC

8 (3-0, 5-0) 0

作新学院大学



(栃木シティFC対作新学院大学)



(セレモニー集合写真)

第103回天皇杯全日本選手権 栃木県チームの結果

第103回天皇杯全日本選手権は5月20日に各地で1回戦が開幕。本県は県協会の運営により県グリーンスタジアムで、NEZASカップで優勝した栃木シティFCが出場し、愛知県代表のFCマルヤス岡崎と対戦、4-1で勝利し2回戦進出を決めた。

試合は前後半1-1で延長戦へ突入。延長前半11分に栃木シティFCの大島貴がゴールを決め、その後には、山村祐樹、さらに延長前半アディショナルタイムに藤原拓海がゴールを決め、勝利した。



▽1回戦

栃木シティFC

4(1-0, 0-1、延長、3-0, 0-0)1
FCマルヤス岡崎（愛知県代表）

2回戦は6月7日から21日にかけ、各地で32試合が行われた。2回戦から登場した栃木SCは秋田県のソユースタジアムでブラウブリッツ秋田と対戦し2-1で勝利、昨年に続く3回戦進出となつた。

栃木シティFCは神奈川県の等々力陸上競技場でJ1の川崎フロンターレと対戦し、1-3で敗れた。

▽2回戦

栃木SC (J 2)

2 (1-0, 1-1) 1
ブラウブリッツ秋田 (J 2)
川崎フロンターレ (J 1)
3 (1-0, 2-1) 1
栃木シティFC

3回戦は7月12日から19日にかけ、各地で16試合が行われ、栃木SCはカンセキスタジアムとちぎでJ1のサンフレッチェ広島と対戦し2-0で快勝した。試合は栃木SCが後半9分にPKで先制。その後、耐える時間が続いたが、後半アディショナルタイムにダメ押しの2点目を奪って試合を決めた。

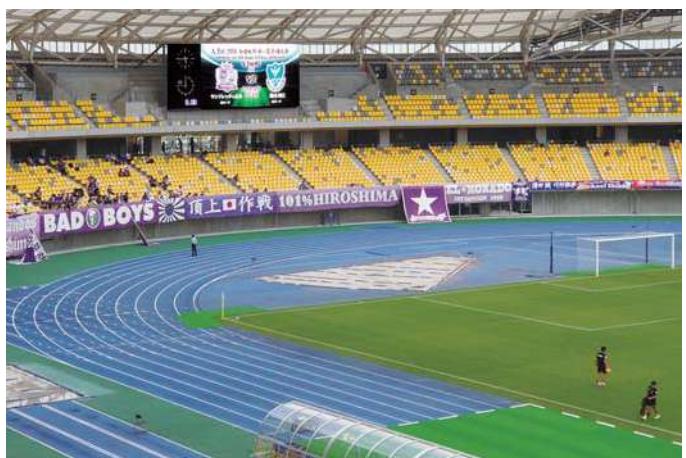
2年連続4度目の4回戦進出となった。

▽3回戦

栃木SC (J 2)

2(0-0, 2-0)0

サンフレッチェ広島 (J 1)



4回戦は8月2日、各地で8試合を開催。栃木SCはカンセキスタジアムとちぎでJ1のアビスパ福岡と対戦、延長の末に2-4で敗れて初の準々決勝進出はならなかった。

▽4回戦

アビスパ福岡 (J 1)

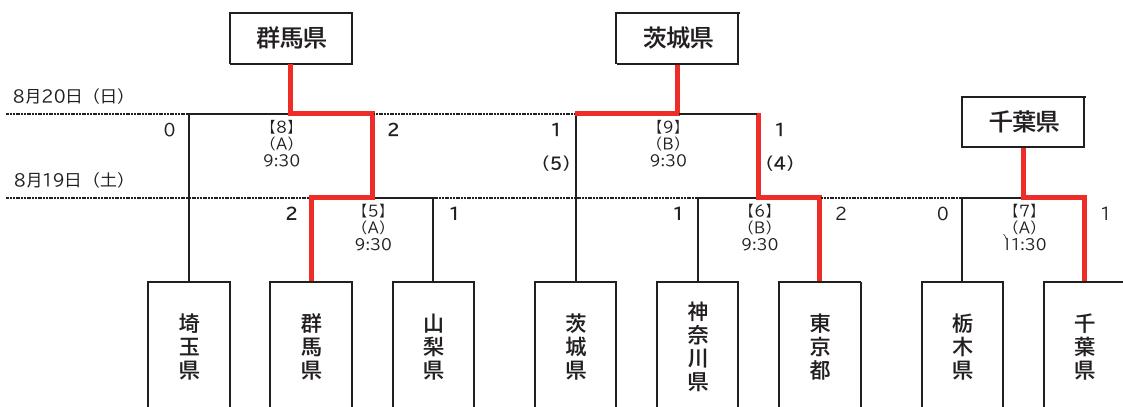
4(1-1, 1-1、延長、0-0, 2-0)2
栃木SC (J 2)



特別国民体育大会 関東ブロック大会 サッカー競技 結果

成年男子

(A) 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場
(B) 熊谷スポーツ・文化村『くまびあ』

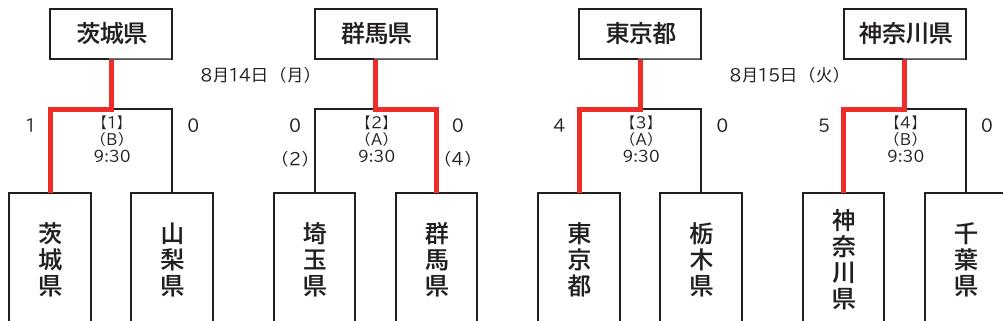


少年男子

(A) 埼玉スタジアム第2グランド
(B) 埼玉スタジアム第3グランド

U16リーグ結果

Aブロック	1位	茨城県	2位	埼玉県	3位	千葉県	4位	栃木県
Bブロック	1位	東京都	2位	神奈川県	3位	群馬県	4位	山梨県

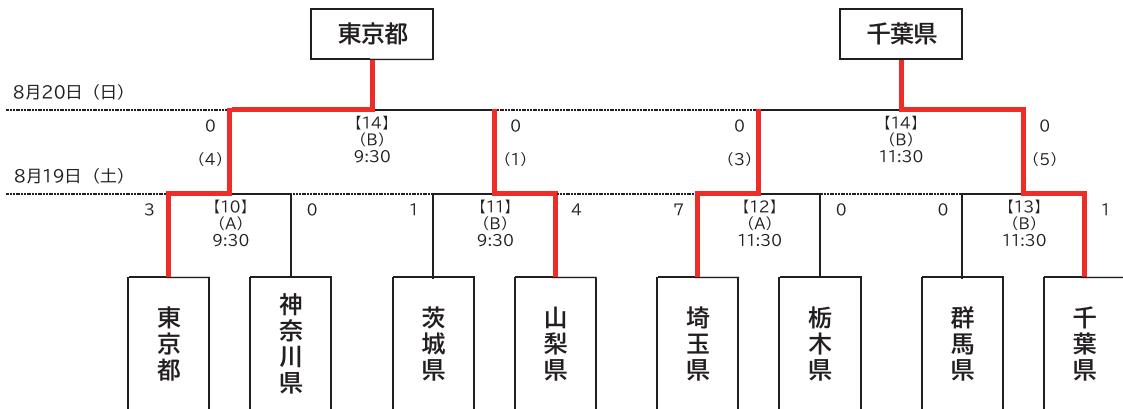


少年女子

(A) 埼玉スタジアム第2グランド
(B) 埼玉スタジアム第3グランド

U16リーグ結果

Aブロック	1位	東京都	2位	群馬県	3位	山梨県	4位	栃木県
Bブロック	1位	埼玉県	2位	茨城県	3位	千葉県	4位	神奈川県



栃木SC

栃木SC U-18について

育成部長兼U-18監督 只木章広

我々栃木SCU-18はプリンスリーグ関東2部、日本クラブユース選手権に出場させていただいた。我々は以下のような哲学のもと、主力である3年生を中心にチーム全員で戦っています。

我々は挑戦者。栃木SCのフィロソフィーであるKEEP MOVING FORWARDを体現すること。常にゴールを目指し全力で走り、ボールを運び、前に進み続けること。身体を張ってゴールを守り抜く。持ち合わせる全てのエネルギーを使い切ること。支えてくれる保護者、応援してくれる皆さんのかころを動かすこと。栃木県を誇りに思い、愛する選手で日本一を目指す。そしていつの日か栃木SCの育成選手でJリーグを制覇する。

環境なんて関係ない、どこの出身かなんて関係ない、栃木を愛する選手で全力で戦うだけ。これらを体現する選手16名である。

GKは、背番号1の熊倉成希は攻守にアグレッシブなプレーで、まさにチームの守護神となっている。ゲーム中は仲間を鼓舞しつづけ疲労困憊の状況でも最後まであきらめさせない。多くの試合で相手の決定的ヘディングシュートをビックセーブで弾きチームを救っている。背番号21の石井翔大は穏やかな性格だが、少々のピンチでは動じないメンタルを持つ。ビルドアップを得意とし、正確なキックが武器。内に秘める闘志を持つタイプで、関東リーグ後期西武台戦で見せたブレイクアウェイは迫力十分の最高のプレーであった。

私が考えるに、GKのビックセーブは、ゴールを決めた時の場内の歓喜と同様と捉えている。なので、GKの技術トレーニングやメンタルトレーニングは非常に重要。栃木SCアカデミーGKコーチの橋本氏の選手に寄り添い背中をそっと押す指導は、ミスが勝敗に直結し、強靭なメンタルが必要なGKは、いつも守られている安心感でどんどんチャレンジし、明るく伸び伸びと成長していく。チームの本当の強さは、良いGKがいなければ絶対に成立しない。

DF、センターバックは、背番号5の本橋頼（栃木SCU12-U15）ゲームを冷静に読む力がありビルドアップも精度が高く安定してスムーズにボールを運べる。また、強靭なメンタルでゴールに立

ち塞がる。

背番号4の安齋大輝（Msユナイテッド-ともぞうSC）普段はおとなしくこころ穏やかな優しい青年だが、ゲーム中はコーチングの声をとだえることなく送り、仲間を後方から助ける。また、空中戦に強くCKでのヘディングシュートで得点も奪える。

背番号3の柏崎滉太（佐野SSS-FCクレアデール）ずば抜けた身体能力を持ち、スピード、跳躍力はチーム一、ファイティングスピリット溢れるプレーで相手のドリブル突破を阻止し、時にボールを奪いカウンターに転じていく。

背番号13の飯島颯太（ともぞうSC-ともぞうSC）闘争心溢れ、常にチームを鼓舞する元気印である。身体能力を活かしたヘディングと攻撃的フィードを得意とし、己の信じる道を邁進する。栃木SCのフィロソフィーに合致する気持ちのいい選手である。GKと同様、チームの堅守を支えているのはまさにこのセンターバック陣の逞しさにある。栃木SCのダイナミックな攻撃の中心的存在はサイドDFにあり。

背番号2の臼井春翔（栃木SCU-12-U-15）左足から繰り出されるシュート、クロスの精度は一級品で、ボールを奪いそのままサイドを駆け上がる様は迫力満点。

背番号17の小幡心（FCBoaSorte-栃木SCU-15）超攻撃的サイドバックで得点能力に優れている。FWでの実績もあり、ゴールを奪える場所、タイミング、相手との間合いを持っている。

チームの心臓。ゲームをコントロールするMFは、背番号14の石川丈慈（栃木SCU-12-U-15）まさに栃木のダイナモで、攻守に連続してプレーができる、1試合休むことなく動き続ける。ミドルシュートは鋭く、自在のドリブルで相手を翻弄する。背番号7の館野勇輝（FC中村-栃木SCU-15）ボールを奪うためのアプローチスピードが速く、一瞬にしてボールを刈り取る。攻守連続でしかも高速で動き続け、相手の隙を見逃すことなくゴールも豪快にしとめることができる。

背番号6の永井心温（FCRiso-栃木SCU-15）万能型。試合の状況を読み、DFをカバーし守備を固める時間帯なのかリスクを冒して相手ゴール前に出していくべきか。ボールを自在に操りパスとドリブルを駆使して相手守備陣を崩していく。

タイプの違うアッカーレーンがゴールを狙う。背番号11の佐藤佑磨（石井FC-栃木SCU-15）強烈なサイドアッカー。トップスピードでのドリブル突破は誰も止めることが出来ない。溢れる闘争心を全面に出し、仲間の先頭に立ってチームをけ

ん引する。

背番号10の揚石琉生（三島FC-栃木SCU-15）ゴールへのイマジネーションに溢れ、時に豪快に、時に纖細にゴールを奪ってきた。年代別代表に選出されるなど、類まれな才能を發揮し全てのゴールに直結するプレーで観客を魅了する。

背番号8の佐藤麻陽（ヴェルフェ矢板U-12-栃木SCU-15）頭脳明晰、常に賢くプレーし、独特的の間合いで相手の逆を突きペナルティーエリア内を攻略していく。シュートセンスに優れ、僅かなシュートコースに華麗に流し込む。また、複数のポジションをこなすポリバレントさもあり、チーム戦術の幅を広げる役割を果たす。

背番号9の村上竜規（FC中村-栃木SCU-15）万能型ストライカー。得点力だけでなく前線からのプレッシング、ピンチ時に守備を助けるスプリント力などまさにチームの中心としての存在感がある。決してボール支配を主とした戦術ではない中で、ゴールを奪うことでゲームの状況を一気に変えて勝利をもぎ取ってきた真の立役者である。

背番号15の茂木琉貴（FC毛野-毛野中学校）テクニック、シュートセンス溢れるアタッカーで、相手DFとの駆け引きを制してゴール前を攻略する。ボールを持つと何が繰り出されるか予測できない魅力があり、場内を大いに楽しませてくれる。また、チームの人気者でいつも雰囲気を明るくさせてくれる。



— 第1種委員会・社会人連盟 — 栃木県サッカー協会理事並びに 第1種委員長就任について

作新学院大学
堀田 利明

まず初めに今回就任に際しご尽力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

また第1種が関わる成年男子サッカーへのご配慮いただきありがとうございました。

私は栃木県に生まれ栃木県で育ったものです。私自身が栃木県になにができるかを考えたとき、一番に考えられることは先人たちが残してくれたものを継承することが一番だと感じています。もちろん指導者としてはアップデートをしていかないといけないと考えていますが、先人たちのサッカーに対する思いは継承していくべきだと思います。

その為には身を粉にして栃木県のサッカーの発展に向けて努力していこうと思っています。

その中でも私が就任に際しカタチにしていきたいことは2点あります。

1点目は会長の意志をカタチにすること。
その中でも、安心安全が一番！

命あってのものなのでサッカーをする以前に健康に注意しながら競技をすること。

2点目は種別を問わずに情報を共有できる環境にすること。

垣根を越えて各種の困っていることや協力出来るものなどを共有し、栃木県のサッカーに関わる人が栃木県の全てのチームを応援できる環境にしたいと思います。

最後になりますが、まだまだ未熟な部分はたくさんありますが、現場の意見を上へぶつける係りだと思っています。

栃木県サッカー界が発展するためのご意見はどんどんいただきたいと思いますので気軽にお声掛けください。

第1種の皆さんで動きましょう！

6年目の挑戦へ！

栃木シティフットボールクラブ
末原 加奈

日頃より、栃木県サッカー協会、ホームタウンである栃木市、壬生町及び栃木県南地域のみなさまには当クラブの活動に対し、深いご理解とご支援、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

2023シーズンの栃木シティは、今矢監督体制のもと1年目を共に闘い抜いた選手らに加えてJリーグやJFLでのプレー経験がある選手や勢いのある大卒ルーキーの新たな戦力が加入し、昨年の悔しさを払拭すべくスタートしました。“観る人を魅了する攻撃的なサッカー”を打ち出し、結果はリーグ最多の54得点を記録。しかし、あと一歩及ばずリーグ戦は2位で終了してしまいましたが、得点王に山村佑樹、アシスト王に田中パウロ淳一と個人タイトルを獲得し、個のレベルの高さ、そしてシティのサッカーを存分に見せつけてくれました。

天皇杯にも栃木県代表として出場することができ、1回戦の相手はJFLで戦うFCマルヤス岡崎でしたが4-1で勝利。2回戦はJ1川崎フロンターレと2017シーズン以来の対戦。結果は1-3と敗れはしたものの、一時は同点に追いつき川崎フロンターレ相手に通用する部分も沢山あり、良い経験が出来たと思っています。

今シーズンのホームゲーム9試合では、コロナ禍が明け多くのファン・サポーターの皆さまが栃木市岩舟町にあるスタジアム(CITY FOOTBALL STATION)にご来場いただき平均入場者数は1,156人を記録することができました。ゴール裏のサポーターエリアには試合を重ねるにつれて子どもたちの姿も多く見られ、スタジアムに響く子どもたちの声援が日常となり、地域の皆さまに支えられ運営ができていることを実感したシーズンとなりました。心から感謝しています。

最後になりましたが、栃木シティフットボールクラブはチャレンジし続けます。チーム・クラブが常に向上心を持ち、1日1日を大切に皆様と共にJリーグ入りを目指していきたいと思っています。シティの発展が地域の発展と信じ、私たちが出来る事を一つ一つ全力で行っています。CITY FOOTBALL STATIONを中心に、より地域との絆を強固にしながら、サッカーを通して栃木県南地域の活性化に取り組んで行くことはもちろん、これまでと変わらず皆様に『夢・希望・感動』を与え続けられるようなサッカークラブを目指して参ります。

引き続き、ご指導とご支援、ご声援の程、宜しくお願い致します。

Plus Ultra

ヴェルフェ矢板
箕輪 圭祐

日頃より（公社）栃木県サッカー協会、ホームタウンである矢板市の皆さまをはじめ多大なるご支援、ご協力、ご声援を賜りまして誠にありがとうございます。

今シーズンは、『Plus Ultra～更なる前進～』をスローガンに、現状に満足することなく、一人一人のサッカー感を日々ブラッシュアップしていくことを意識して取り組んできました。そのためには、選手たちに求めるだけでなく、私たちスタッフ陣もコミュニケーションを重ね自分たちの考えをアップデートしてきました。遅いときは22時過ぎまでクラブハウスに残り、意見をぶつけ合う。そんな試行錯誤をした先に、みんなと勝利を分かち合う瞬間はとても最高でした。昨年の選手という立場から、いきなり監督という立場に代わり、正直不安だらけでしたが、そんな不安を自信に変えてくれたのは選手、クラブスタッフのおかげです。さらに、クラブに関わってくださるトレーナーや学生スタッフ、OBの協力にも助けられました。おかげで、リーグ戦は12勝1分5敗の2位と目標であった関東1部昇格圏内の順位で終えることができました。



一方で、天皇杯栃木県予選では栃木シティに、全国社会人選手権関東予選では、東京国際大学FCに敗れるなどトーナメントでは思うような結果を残すことができませんでした。

しかし、勝ったときも負けたときもスローガンのもと全員が一喜一憂せずトレーニングに励んでくれました。ここ最近、地域リーグでもフットボールを中心に生活ができる環境が整ってきており、私たちは日中各自仕事をこなした後、トレーニングに向かい、週末の試合に向けて練習を重ねています。こんなにも厳しく過酷なリーグで結果を求められる中、選手、スタッフ、クラブ関係者のみんなは、自分や家族、大切な人との時間を割きながら週末に迎える戦いに備え、本当に頑張ってくれました。その努力をきちんと成果に繋げられるよう、今後も日々の常識を疑い、互いに高めあえるような組織を目指して、一歩一歩前進していきます。

末筆になりますが、栃木県のサッカーに関わる皆さま、そして（公社）栃木県サッカー協会のますますの発展をお祈り申し上げます。ありがとうございました。



栃木シティU-25の戦い

安藤 淳也

4月16日より始まった栃木県知事杯を1回戦・UACJ小山、2回戦・FC CASA、決勝戦・作大FCと勝利することができ、全社関東予選の切符をつかむことができました。

全社関東予選では、1回戦・さいたまSCと対戦し延長戦までもつれ込む厳しい試合となりましたが、延長後半ATにゴールし3-2で勝利することができました。相手のサッカーや所属選手の力など未知数の部分が多く、改めて他県リーグに所属するチームとの対戦の難しさを感じる試合となりました。2回戦では東邦チタニウムとの対戦でした。

東邦チタニウムとの試合では、関東リーグでTOPチームが対戦しているので分析もでき十分に準備して臨みましたが、前半早々に失点すると相手の堅い守りを崩すことができず苦しいゲーム展開のまま3失点し、終盤には押し込む展開になりましたが1点を返すのがやっとで1-3で敗れました。カテゴリーが上のチームとの対戦によって自分たちの守備の脆さやメンタルの弱さを痛感する試合となりました。

リーグ戦に関しましては、3月26日の開幕から後期第1節まで全勝で乗り切れることができ後期2節の引き分けを挟み、その後全勝で結果12勝1分け(9月29日現在)で栃木県社会人サッカー1部リーグを優勝することができました。どの試合も難しい試合でしたが、選手達が課題と向き合い1つ1つ努力してくれたことがこの結果につながったと思います。また、後期2節のFC足利とのゲームで引き分けたときは悔し涙を流す選手が数名いた程、毎試合にかける気持ちが選手の中に芽生え、トレーニングからいいサイクルができたのかなと思います。

栃木シティU-25は栃木シティのセカンドチームにあたりますが、選手はTOPチーム昇格を目標にトレーニングしています。日頃よりチームとして結果が出せなければ個人としても評価されないとチームに落とし込んできましたが、個人の目標はもちろんですがチームとして行動できる人間性も育ってきたを感じております。その結果8月31日にU-25より宍戸俊明選手(作新学院大学卒)がクラブ初となるTOPチーム昇格をつかみ取りました。昇格もあればレンタル移籍でTOPチームからU-25に加入した選手もいます。クラブ全体が選手を大事に成長させられる環境が少しずつできてきたを感じております。

また、運営面などに関しましてはまだ未熟な所も多く、各チームにはご迷惑をお掛けしたと思います。その点につきましてはチームとしての今後の課題になるのではないかと思っております。

リーグ戦の結果により関東社会人サッカー大会に駒を進めることができました。栃木シティのエンブレムを背負い未来ある若い選手たちは様々な想いや目標の為に日々努力しております。チーム一丸となり必ず関東リーグ昇格を掴み取りたいと思います。

引き続き、ご指導とご支援、ご声援の程よろしくお願い致します。



第30回全国クラブチームサッカー選手権大会関東大会を終えて

リスタ宇都宮 代表 星野勇樹

当クラブは、地域に密着・貢献し、生涯にわたってサッカーを継続できるクラブを目指し、2015年に宇都宮市を拠点に設立しました。まだ歴史が浅いクラブですが、クラブのコンセプトに基づき少しづつ成長してきました。

昨年度は、楽しむことを目的とした兄弟チーム、「アナザーリスタ（県央3部）」を設立しました。チームを一度離れたメンバーが戻ってきたり、リスタ宇都宮から移籍した選手が多数在籍したりと、設立の意義を感じています。

また、将来ジュニアチームやジュニアユースチームの設立を目指す第一歩として、「リスタサッカースクール」を開設しました。1回500円で気軽に参加できる子ども対象のサッカースクールとし、活動開始からまもなく1年がたちます。スクールには、3歳から小学校中学年の子どもたちが参加し、元気に楽しく活動してくれています。今後さらにたくさんの子どもたちに参加してもらいたいです。

クラブのベースができはじめ、今年の栃木県大会こそは、必ず優勝し関東大会に出場するという強い決意で望みました。独特の緊張感で迎えた1回戦、70分では決着がつかず、PK戦の末に何とか勝利、続く2回戦は、1点を追う状況からラストワンプレーで同点、2試合連続となるPK戦での勝利となりました。

その後、準決勝、決勝ともに一瞬たりとも油断ができない試合展開が続きましたが、ピッチの選手、ベンチメンバー、スタッフが一丸となり、何とか初優勝を勝ち取りました。9年間の思いが報われた瞬間でした。



そして迎えた関東大会、遠方での開催であることや、試合が土曜日であることから、メンバーが多く集まらない状況での試合となりました。相手

は地元神奈川県のチームでしたが、全ての面でレベルの差を痛感させられ、大敗てしまいました。とても悔しかったです。しかし、参加した選手、スタッフそしてチームとしても確実な手応えと今後のヒントを得たと強く感じています。来年度、設立10周年を迎える当クラブにとって本当に意味のある大会でした。

最後に、関東社会人サッカー連盟、神奈川県サッカー協会の方々のご尽力に感謝いたします。また栃木県代表として快く送り出してくださった栃木県サッカー協会、宇都宮サッカー協会や、日頃からクラブを応援してくださっている皆様に心から感謝いたします。そして今後ともリスタ宇都宮をよろしくお願いいたします。



18年振り関東2部への参入

作新学院大学 4年
主将 北島 伊織

今年新チームが始動してから、関東2部5位以内という目標を掲げ、チームづくりをしてきました。リーグ開幕前は、全員がわくわく感や自信に満ち溢っていましたが、リーグが開幕すると、勝つことが簡単でないことを思い知らされました。去年戦っていた北関東リーグとは違い、一つ一つのレベルが想像以上のものでなかなかチームに勝利がない状態でした。しかし、チーム全体が危機感を持ち、会話が増え、ゲーム内での声が出るようになり、第4節の駒澤大学戦では駒澤大学の攻撃を凌ぎ、18年前は一勝もできなかった関東リーグで初勝利を遂げることができ、大学の歴史を塗り替える事ができました。その後はいい試合ができるもののあと一歩のところで勝ちを逃す試合が増え、前期終了時2勝2分8敗で11位と目標とはかけ離れた結果になってしまいました。少しの気の緩みやミスが失点に繋がり、勝ち点を落とす事になる事を改めて認識させられましたが、ハイプレッシャーでインテンシティがありハイレベルな

リーグでの公式戦は緊張感があり個人としても、チームとしても成長させてくれます。後期では一つ一つの緩み、球際の強さ、試合終了まで集中を切らさない忍耐力をもって後期勝ち点を積み上げて行き後輩達に関東リーグ2部という舞台を残したいと思います。作新学院大学そして栃木県のサッカーレベル向上の為にも頑張りたいと思います。

特別国民体育大会 関東ブロック大会（成年男子）

社会人連盟・技術強化委員会 強化部長
(成年男子コーチ) 高秀賢史

日頃より、栃木県サッカー協会及び社会人連盟の活動に対し、深い理解とご支援、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

昨年、本県で開催された「第77回いちご一會とちぎ国体」において、本県成年男子チームは5位入賞を果たしました。

今年は、鹿児島県で開催される「特別国民体育大会」への出場をかけた関東ブロック大会が令和5年8月に熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で行われました。

1回勝てば、出場が決まる大会で、チーム一丸となって挑んだ結果、千葉県に0-1で敗れてしまい、本戦出場にはなりませんでした。

大会までの取組であります、今大会の成年男子チーム構成については、昨年のとちぎ国体から引き続き、堀田利明監督（作新学院大学サッカーデ部分）で挑むこととし、関東リーグで活躍する「栃木シティフットボールクラブ」「ヴェルフェ矢板」の選手を中心に、県社会人リーグをけん引する「栃木シティフットボールクラブU-25」、「FC CASA FORTUNA OYAMA」の選手の中から選抜してチームを編成しました。

スタッフについては、上記の各チームにおいて選手間のコミュニケーションが円滑に図れる観点などから、「若林学コーチ（栃木シティ）」「小林庸尚GKコーチ（ヴェルフェ矢板）」に協力いただき、また、現場での経験値や選手のコンディションを的確に判断できる「曾村岳史氏」をトレーナーとして、「田澤聖士氏」「谷津和氏」「三森綾音氏」にはチームスタッフとして協力いただきました。

チーム活動について、選手選考時は、監督とコーチ陣で「作業部会」を開催し、今年の目指すスタイルや選手強化に向け共通認識を図るとともに、3~5月の各種大会の試合に視察に行き、戦術に

マッチする選手、コンディションのいい選手をピックアップさせていただき、ラージグループを編成しました。

その後、6月以降は、選手間の連携強化やコミュニケーションの向上を図るため、「強化練習会」を行い、7月には「練習試合（群馬県成年男子チーム）」を行なながら、チームの強化に取り組み、最終的に16名の選手を選考しました。



関東ブロック大会について、千葉県は、JFLに所属するブリオベッカ浦安で構成し、事前の分析通り、サイドからの攻撃が特徴で、守備は5-4-1でコンパクトにして戦っていました。それに対し栃木県は4-3-3を基本にゲームプランをはじめボールの奪いどころ、攻撃の決まり事など戦術を十分に共通認識を図り挑みました。試合では、互角以上の戦いをし、決定機も栃木県のほうが多かったですが、終盤のセットプレーで失点してしまい、0-1で敗れてしまいました。選手はリザーブも含め、酷暑の中、最後まで栃木の勝利のために戦ってくれました。



次回の成年男子チームが出場できる国体は、2年後の開催となります。今後、関東ブロック大会を突破し、本戦でも上位を目指すためには、これまで以上に得点力を強化しなければならないと

改めて実感したところです。

この大会に望むにあたり、県サッカー協会関係者の方々をはじめ、栃木のために熱い想いで集まつて戦ってくれた各チームの選手、スタッフ、またその所属する各チーム関係者の方々に、深く感謝申し上げます。

最後に、私が国体活動に関わっている理由についてですが、栃木SC（当時JFL）の選手時代において、第58回わかふじ国体（静岡県）、第59回彩の国まごころ国体（埼玉県）、第60回晴れの国おかやま国体（岡山県）に出場し、栃木県成年男子3連覇の優勝を成し遂げる事が出来た経験を、地元である栃木サッカーのために還元したい、また当時のsuchな経験を地元の人達、選手たちに味わってもらいたいという強い思いと、「強い栃木の再建」に向けての第一歩になればとの想いで、現在、社会人サッカー連盟や技術委員会に関わらせていただいている。

その、強い栃木の再建に向け、本技術委員会においても伊奈川技術委員長となり、本組織も変革を迎えており、栃木のサッカーを盛り上げたい、関わりたい方がいらっしゃいましたら、是非声をかけてください。ともに、栃木のサッカーを盛り上げましょう。今後も、より一層の栃木県サッカーの強化に向けて取り組んでいきたいと思います。



白鷗足利(県予選決勝戦スターティングメンバー)



佐野日大(県予選決勝戦スターティングメンバー)

全国高校総体県予選/全国高校総体(インターハイ)

インターハイ県予選では、プリンスリーグ関東所属の矢板中央、ノーシードから勝ち上がった國學院栃木、関東大会出場の佐野日大と白鷗足利がベスト4となりました。それぞれのチームの特徴を発揮した好ゲームとなった準決勝戦でしたが、矢板中央と佐野日大が決勝進出となりました。決勝戦は両校の堅守によって決定機が少ない試合展開となりましたが、矢板中央が勝利し、5大会連続12度目のインターハイ出場を果たしました。

北海道旭川市で開催されたインターハイでは、初戦となる2回戦で東邦(愛知県)に3-1と勝利。3回戦の高川学園(山口県)との試合では、雷のために後半途中から長時間の中止となる難しい試合となりましたが、PK戦の末に勝利しました。続く準々決勝、国見(長崎県)との試合もPK戦までもつれる展開となり、惜しくも敗れてしましましたが、2年連続のインターハイベスト8となりました。

— 第2種委員会・高校連盟 —

高校連盟より

栃木県高体連サッカー専門部委員長
臼井 紀仁

県総体兼関東大会県予選/関東大会

県予選では、佐野日大、足利大附属、真岡、白鷗足利がベスト4進出。準々決勝以降の試合は全て1点差かPK戦による決着となり、拮抗したゲームが続きました。その中で白鷗足利が初優勝を果たし、準優勝の佐野日大とともに東京都で行われた関東大会に出場しました。

関東大会1回戦では、白鷗足利が八千代(千葉県)、佐野日大が実践学園(東京都)と対戦しましたが、残念ながらともに敗退となりました。



矢板中央(県予選決勝戦スターディングメンバー)

高円宮杯TFA U-18ユースリーグ栃木

1部10チーム、2部10チーム2ブロック、3部10チーム6ブロックで構成し、県内ほぼ全ての高校と、栃木SC・栃木シティの2クラブが参加して、4月から12月まで2回戦総当りリーグを実施しています。20回目の節目となる来年度は、今シーズンの最終結果から4部制に再編成し、栃木県の実情に合ったより良いリーグ環境の構築を目指しています。

また、ユースリーグ栃木の上位リーグにあたるプリンスリーグ関東1部に矢板中央、2部に矢板中央Bと栃木SCU-18が所属し、関東の強豪チームと切磋琢磨しています。厳しい戦いが続いているが、高校年代最高峰の「プレミアリーグ」に本県から参入するチームが誕生することを期待します。

令和5年度 第66回 関東高校サッカー大会に出場して

白鷗大学足利高等学校サッカーチーム
監督 加藤 成信

・県予選

県新人大会ではベスト16というチームで到底納得の出来ない結果に終わった。その後チームミーティングを行い、見直し・立て直しを選手と共に検討した。その結果、精神力の向上が必要との答えに至り、2月・3月と全員で取り組んだ。内容としては、基本技術の徹底と走り込みであった。我慢と忍耐の2か月間を過ごした。

そして、その成果が早速この大会で発揮された。1回戦からのスタートとなったが、1回戦vs壬生高校 8-0 ○ 2回戦vs那須拓陽 3-1 ○ 3回戦vs宇都宮北 3-1 ○ 準々決勝vs宇都宮工業 2-1

○ 準決勝vs真岡 0-0 PK 6-5 ○ で初の関東大会出場を決めた。ここで、再度チームミーティングを行い、初出場として相応しいチームであるか？あるならば第一代表を目指そう！と結束を固め、決勝に臨んだ。決勝vs佐野日大 1-0 ○ で初優勝を飾った。6試合すべてのゲームで、選手たちが素直に戦術を受け入れ、プレーしてくれたことが優勝の要因であった。



・関東大会本戦（東京都開催）

栃木県第一代表として出場した本戦では、優勝候補の千葉県第一代表の八千代と対戦することになった。事前の準備として、千葉県大会の決勝をスカウティングして分析・対策を行った。選手1人1人の基本技術の高さ・ポゼッション能力・決定力に目を見張るものがあった。打開策をチームに浸透させる準備をしたかったが、予選やリーグ戦などの怪我人が多く万全の準備をすることの難しさに直面した。その中でも、最低限の準備としてカウンター攻撃の質を上げることがある程度出来ていたので、それを武器に優勝を目指すとチーム一丸で臨んだ。結果は0-3で敗戦した。試合内容としては、前半早々に狙いとしていたカウンター攻撃から相手GKとの1対1の場面を作ったが、枠を外してしまった。これを決めていれば結果は変わっていたかもしれない。その後は自力に勝る八千代に主導権を握られ、コーナーキックとPKで失点。後半開始早々にもチームで完璧に崩され失点してしまった。その後、後半途中からは相手プレースピードに慣れてきて、チームの持ち味であるカウンター攻撃・セットプレーで何度もゴールを目指したが得点を奪えなかった。

今大会を終えて感じたことは、特に南関東のチームのレベルの高さである。今後は更に向上心を持ち、1日1日を大切にチーム強化に励みたい。



第66回関東高等学校 サッカー大会に出場して

佐野日本大学高等学校サッカーチーム
副主将 福田 一樹

第66回関東高等学校サッカー大会に、栃木県大会準優勝という結果を収め出場させて頂きました。栃木県サッカー新人大会では優勝しましたが、今大会では初戦から苦戦を強いられる試合が続きました。一試合一試合とても手ごたえがあり、試合を重ねるごとにチームの成長を感じられました。決勝戦では白鷗足利高校に敗れてしまったこともあります。

関東大会1回戦、東京都代表の実践学園高等学校と対戦しました。対戦経験がなかったため、始

めは守りから入りました。慎重に試合を進めていましたが、中盤を突破され速い攻撃で守備陣の背中を取られ一瞬で先制点を許してしまいました。しかし、前半終了間際にショートカウンターから得点し、追いつくことができいい形で前半が終了しました。後半、少しづつ守備が崩れてしまい、相手の猛攻に耐えることができず3失点してしまい、1-4で大敗てしまいました。

県大会と違い、組織力やプレースピードの差を点差以上に感じました。特に実践学園のFWの選手は、ボールを受ける前の予備動作が素晴らしかったです。フリーで前線に起点をつくったり、DFの背後への抜け出すタイミングが良かつたりしたので見習うプレーがたくさんありました。今大会を通して自分たちがどういったところを強化し、何を目標にしていくか定めることができました。ひとつずつ改善していく、選手権全国大会出場に向けチームとしても、個人としても成長していきたいです。

最後にこの状況の中、今大会を開催し運営してくださった大会関係者の方々や指導者、保護者の方々に感謝をし、これからも精一杯頑張っていきたいと思います。日ごろ応援してくださっている周囲の皆様に試合で恩返しができるよう日々精進していきますので、今後ともよろしくお願ひ致します。

— 第3種委員会・クラブユース連盟 —

日本クラブユース(U-15)サッカー 選手権(関東大会・全国大会)を戦って

栃木サッカークラブ
ヘッドオブコーチング兼U15監督 花輪浩之

昨年に続き、今年も日本クラブユース(U-15)サッカー選手権大会に出場することができました。関東大会では関東リーグに所属している3チームに勝利し、選手・スタッフ共に自信を深めることができました。しかし、その一方で、指導者としては、選手の将来のために、ボールを扱うスキルや各々の強みの部分(個性)をより強化していかなければいけないと考えさせられました。全国大会は昨年同様グループステージは突破したものの、ノックアウトステージで初戦敗退となりました。全国大会においても関東大会で感じた、個の強み(個性・特徴)の強化の重要性を改めて強く感じさせられました。今後はこれらの経験を生かし、選手と共に成長できるように努力していきたいと思います。



最後になりますが、参加している全ての大会におきまして、運営関係者の皆様、審判団の皆様、会場を提供していただいている施設関係者の皆様、いつも温かいサポートをしていただいている保護者の皆様・サポーターの皆様に心より感謝申し上げます。



2023年度 大会結果

2023年度 第29回関東クラブユースサッカー選手権(U-15)大会兼
第38回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会・栃木県予選

優勝	栃木SCU-15
準優勝	那須野ヶ原FCボンジボーラ
3位	ウイングスSC
4位	NIKKO SPORTS CLUB セレゾン
5位	FC VALON
6位	ともぞうSC
7位	J-SPORTSFOOTBALLCLUB-15

第29回関東クラブユースサッカー選手権(U-15)大会

栃木SC 9~12位
那須野ヶ原FCボンジボーラ 2回戦敗退
ウイングスSC 1回戦敗退

2023関東クラブユースサッカー選手権(U-15)大会Division2

準優勝	ともぞうSC
4位	FC VALON
9位	NIKKO SPORTS CLUB セレゾン
12位	J-SPORTSFOOTBALLCLUB-15

第38回 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)

栃木SC グループステージ突破、
ノックアウトステージ 1回戦敗退

— 第4種委員会・少年連盟 —

QUALIER CUP 第9回栃木県U-12サッカー大会



6月11・17・18・24・25日の5日間で行われた本大会、鹿沼市・下野市・那須塩原市・宇都宮市・那須烏山市・栃木市・足利市・真岡市・芳賀町の9市町の会場において136チームが参加しました。

大会4日目、熱戦を勝ち抜いた16チームが関東大会への出場権をかけて激突しました。激戦の末PK戦にまでもつれる試合もあり、1点を争う好ゲームが数多く見られました。勝ち残って最終日まで駒を進めたのは、CA.アトレチコ 佐野、FC VALON、ヴェルフェ矢板U-12・fleur、ともぞうサッカークラブの4チームでした。

最終日、決勝に進出したチームは、FC VALON、ともぞうサッカークラブ。攻守ともにバランスのとれた2チームでの決勝となりました。前半はFC VALONが1点を先制するも、ともぞうサッカークラブも果敢に得点を狙いました。一進一退の攻防を繰り広げ、2-1として僅差の試合を制したFC VALONが今大会初優勝の栄冠に輝きました。



<優勝 FC VALON>



<準優勝 ともぞうサッカークラブ>



<第3位 CA.アトレチコ 佐野>



<第3位 ヴェルフェ矢板U-12・fleur>

2023フジパンカップ第47回関東U-12サッカー大会in東京・山梨

8月26・27日に山梨県富士河口湖くぬぎ平スポーツ公園サッカー場で行われた2023フジパンカップ第47回関東U-12サッカー大会in東京・山梨に、本県から、代表3チーム（FC VALON、ともぞうサッカークラブ、CA.アトレチコ 佐野）が参加しました。

1日目の予選リーグは荒天のため抽選により順位を決定し、2日目の順位トーナメントに臨みました。

○1日目（8月26日）予選リーグ

- ・Bパート3位
FC VALON
1-3 大宮アルディージャU12
- ・Fパート3位
ともぞうサッカークラブ
3-1 REPLO SC

ともぞうサッカークラブ

0-1 PALAISTRA U-12

・Hパート3位

CA.アトレチコ佐野

2-4 柏レイソルA. A. TOR'82

CA.アトレチコ佐野

0-1 FC REGISTA TSUKUBA

1日目の予選リーグでは、3チームともに3位と健闘しました。

○2日目（8月27日）順位トーナメント

・3位トーナメント1回戦

FC VALON

0-2 ファナティコス

ともぞうサッカークラブ

1-0 VIVAO船橋FC

CA.アトレチコ佐野

0-2 FC TRIANELLO Machida

・3位トーナメント準決勝

ともぞうサッカークラブ

3-2 FC TRIANELLO Machida

・3位トーナメント決勝

ともぞうサッカークラブ

1-3 FantasistaFC

・3位トーナメント

FC VALON

2-1 ジェダリスト高崎U-12

CA.アトレチコ佐野

2-1 VIVAO船橋FC

ともぞうサッカークラブは、3位トーナメント決勝まで進み、本県代表として堂々と戦いました。

しました。日の丸を付けて戦うことは誰にもできることではないので、周囲への感謝の気持ちを忘れずに、今持っている全ての力を出し切ろうとピッチに立ちました。



▲日本代表として戦った伊東さん(後列左端)©JDFA

レギュレーションは11人制サッカーの5チームによる1回戦総当たりのリーグ戦でした。日本代表は遠征に参加できるメンバーが8人しかいないため、常に数的不利からのスタートになりました。その中でも「出るからには勝ちにいく。自分たちのサッカーを楽しんで、応援してくれている人に気持ちが届くよう最後まで必死に戦う」ことを目標としました。

1番印象に残った試合は2戦目のイングランド戦で、前半に先制してその後失点、1-1で前半を折り返しました。後半はロングシュートで失点し1-2。自分が失点を抑えていれば勝てていきました。悔しさが残る試合でした。海外の選手はやはり体が大きかったです。そういう選手たちにひるむことなく、対等に戦っていかなくてはいけないことを、身をもって体験しました。

今後の目標は2025年に東京で行われるデフリンピックに日本代表として出場することです。ここでも代表に選んでもらい、金メダルが取れるよう頑張りたいです。

【プロフィール】

いとう・みわ。小学校5年でサッカーを始め、中学2年からGK。宇都宮文星女子高時代は主将として全国選手権に出場した。現在はなでしこリーグ2部のつくばFCレディースに所属。ガソリンスタンドなどを経営するアドバンスカーライフサービスに勤務しながらプレーしている。

女子委員会・連盟

デフサッカーW杯女子の部 文星女高出の伊東選手が出場

9月23日から10月7日まで、マレーシアのケアラルンプールで行われた聴覚障害者サッカーの世界大会「第4回世界ろう者サッカー選手権大会」（デフサッカーワールドカップ）の女子の部に、本県から宇都宮文星女子高出身のGK伊東美和選手（22）＝上三川町出身＝が出場しました。主将という重責も背負っての、自身初の世界大会。4試合を終えて帰国した伊東さんに話を伺いました。

私自身にとって初めてのW杯でキャプテンも任せてもらい、アメリカとの1試合目はすごく緊張

シニア委員会・連盟

2023年度 JFA 第11回 全日本O-40サッカー大会関東地区予選会 結果

【試合会場】 コーエイ前橋フィットボールセンター Aコート Bコート

【試合時間】 50分 (25分-10分-25分)

試合日	マッチ No.	試合会場	kickoff 時間	対戦カード								備考
				チーム名	都県名	pt	スコア		pt	チーム名	都県名	
6/17 (土)	①	Aコート	10:00	横浜シニア	神奈川	0	2	1 - 0 1 - 0	0	3	大泉FCクワレンタ	群馬第1
	②	Bコート	10:00	FC.西武台	埼玉	0	1	0 - 0 1 - 0	0	2	FCトキガネ	千葉
	③	Aコート	11:15	C.A.REAL TOKYO40	東京第1	0	4	2 - 0 2 - 0	0	1	ヴェルフェシニア40	栃木
	④	Bコート	11:15	北群馬サッカーチラブ	群馬第2	0	2	1 - 0 1 - 0	0	1	甲府東シニア	山梨
	⑤	Aコート	12:30	ドリーム水戸シニアFC	茨城	2	1	0 - 3 1 - 0	3	0	横浜シニア	神奈川
	⑥	Bコート	12:30	エリース東京シニア40	東京第2	0	1	1 - 0 0 - 0	0	1	FC.西武台	埼玉
	⑦	Aコート	13:45	大泉FCクワレンタ	群馬第1	0	1	1 - 2 0 - 1	3	0	C.A.REAL TOKYO40	東京第1
	⑧	Bコート	13:45	FCトキガネ	千葉	0	2	0 - 0 2 - 1	1	0	北群馬サッカーチラブ	群馬第2
	⑨	Aコート	15:00	ヴェルフェシニア40	栃木	0	1	0 - 1 1 - 0	1	0	ドリーム水戸シニアFC	茨城
	⑩	Bコート	15:00	甲府東シニア	山梨	0	1	1 - 0 0 - 2	2	2	エリース東京シニア40	東京第2
6/18 (日)	⑪	Aコート	9:30	ドリーム水戸シニアFC	茨城	0	2	0 - 0 2 - 0	0	0	大泉FCクワレンタ	群馬第1
	⑫	Bコート	9:30	エリース東京シニア40	東京第2	f	0	0 - 0 0 - 0	0	2	FCトキガネ	千葉
	⑬	Aコート	10:45	横浜シニア	神奈川	4	1	1 - 2 0 - 0	2	1	C.A.REAL TOKYO40	東京第1
	⑭	Bコート	10:45	FC.西武台	埼玉	0	2	1 - 0 1 - 0	0	2	北群馬サッカーチラブ	群馬第2
	⑮	Aコート	12:00	大泉FCクワレンタ	群馬第1	0	2	1 - 1 1 - 0	1	0	ヴェルフェシニア40	栃木
	⑯	Bコート	12:00	FCトキガネ	千葉	0	5	1 - 0 4 - 2	2	0	甲府東シニア	山梨
	⑰	Aコート	13:15	C.A.REAL TOKYO40	東京第1	1	2	0 - 1 2 - 0	1	1	ドリーム水戸シニアFC	茨城
	⑱	Bコート	13:15	北群馬サッカーチラブ	群馬第2	1	0	0 - 2 0 - 1	3	0	エリース東京シニア40	東京第2
	⑲	Aコート	14:30	ヴェルフェシニア40	栃木	0	1	0 - 2 1 - 2	4	0	横浜シニア	神奈川
	⑳	Bコート	14:30	甲府東シニア	山梨	0	0	0 - 0 0 - 0	0	0	FC.西武台	埼玉

【戦績表】

【グループA】		横浜シニア 神奈川	大泉FCクワレンタ 群馬第1	C.A.REAL TOKYO40 東京第1	ヴェルフェシニア40 栃木	ドリーム水戸シニアFC 茨城	試合数	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	オーバーホント	順位	代表
1	横浜シニア 神奈川	○ 2 - 0	● 1 - 2	○ 4 - 1	○ 3 - 1	○ 0 - 1	4	9	3	0	1	10	4	6	4	2	3
2	大泉FCクワレンタ 群馬第1	● 0 - 2	○ 1 - 3	○ 2 - 1	● 0 - 2	● 0 - 2	4	3	1	0	3	3	8	-5	3	4	
3	C.A.REAL TOKYO40 東京第1	○ 2 - 1	○ 3 - 1	○ 4 - 0	○ 2 - 1	○ 0 - 1	4	12	4	0	0	11	3	8	2	1	1
4	ヴェルフェシニア40 栃木	● 1 - 4	● 1 - 2	● 0 - 4	△ 1 - 1	△ 1 - 1	4	1	0	1	3	3	11	-8	1	5	
5	ドリーム水戸シニアFC 茨城	● 1 - 3	○ 2 - 0	● 1 - 2	△ 1 - 1	△ 1 - 1	4	4	1	1	2	5	6	-1	3	3	

【グループB】		FC.西武台 埼玉	FCトキガネ 千葉	北群馬サッカーチラブ 群馬第2	甲府東シニア 山梨	エリース東京シニア40 東京第2	試合数	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	オーバーホント	順位	代表
1	FC.西武台 埼玉	○ 1 - 0	○ 2 - 0	△ 0 - 0	● 0 - 1	● 0 - 1	4	7	2	1	1	3	1	2	1	3	
2	FCトキガネ 千葉	● 0 - 1	○ 2 - 1	○ 5 - 2	△ 0 - 0	△ 0 - 0	4	7	2	1	1	7	4	3	4	2	
3	北群馬サッカーチラブ 群馬第2	● 0 - 2	● 1 - 2	○ 2 - 0	● 0 - 3	● 0 - 3	4	3	1	0	3	3	7	-4	3	4	
4	甲府東シニア 山梨	△ 0 - 0	● 2 - 5	● 0 - 2	● 1 - 2	● 1 - 2	4	1	0	1	3	3	9	-6	1	5	
5	エリース東京シニア40 東京第2	○ 1 - 0	△ 0 - 0	○ 3 - 0	○ 2 - 1	○ 2 - 1	4	10	3	1	0	6	1	5	2	1	

* 神奈川県、埼玉県がシード、他は抽選による

2023年度 JFA 第22回 全日本0-50サッカーリーグ 関東地区予選会 結果

【試合会場】 2023年4月22日(土) SFAフットボールセンター 東コート（人工芝） / 西コート（人工芝）
 2023年4月23日(日) 埼玉スタジアム2002 第3グラウンド（天然芝） / 第4グラウンド（人工芝）

【試合時間】 50分（25分-10分-25分）

試合日	マッチ No.	試合会場	kickoff 時間	対戦カード								備考	
				チーム名	都県名	pt	スコア			pt	チーム名	都県名	
4/22 (土)	①	東コート	10:30	T・ドリームス50	東京都第1	0	4	-	0	0	栃木教員マスターズ	栃木県	
	②	西コート	10:30	クマガヤSC	埼玉県第1	0	3	-	0	0	FC船橋50	千葉県	
	③	東コート	11:45	FC浦和シニアO-50	埼玉県第2	0	0	0	-	1	ドリーム水戸シニアFC	茨城県	
	④	西コート	11:45	横浜シニア50	神奈川県	1	0	0	-	1	FC青山オーバー・フィフティ	東京都第2	
	⑤	東コート	13:00	山梨マスターズ	山梨県	1	0	0	-	0	T・ドリームス50	東京都第1	
	⑥	西コート	13:00	FC大泉50	群馬県	3	0	0	-	0	クマガヤSC	埼玉県第1	
	⑦	東コート	14:15	栃木教員マスターズ	栃木県	0	0	0	-	1	FC浦和シニアO-50	埼玉県第2	
	⑧	西コート	14:15	FC船橋50	千葉県	1	2	0	-	0	横浜シニア50	神奈川県	
	⑨	東コート	15:30	ドリーム水戸シニアFC	茨城県	0	1	0	-	0	山梨マスターズ	山梨県	
	⑩	西コート	15:30	FC青山オーバー・フィフティ	東京都第2	0	2	2	-	0	FC大泉50	群馬県	
4/23 (日)	⑪	第3グランド	10:00	T・ドリームス50	東京都第1	1	2	1	-	0	FC浦和シニアO-50	埼玉県第2	
	⑫	第4グランド	10:00	横浜シニア50	神奈川県	0	0	0	-	0	クマガヤSC	埼玉県第1	
	⑬	第3グランド	11:15	栃木教員マスターズ	栃木県	0	1	0	-	2	ドリーム水戸シニアFC	茨城県	
	⑭	第4グランド	11:15	FC船橋50	千葉県	0	3	1	-	0	FC大泉50	群馬県	
	⑮	第4グランド	12:30	FC浦和シニアO-50	埼玉県第2	0	0	0	-	0	山梨マスターズ	山梨県	
	⑯	第3グランド	12:30	クマガヤSC	埼玉県第1	0	1	1	-	0	FC青山オーバー・フィフティ	東京都第2	
	⑰	第4グランド	13:45	ドリーム水戸シニアFC	茨城県	0	0	0	-	2	T・ドリームス50	東京都第1	
	⑱	第3グランド	13:45	FC大泉50	群馬県	0	0	0	-	2	横浜シニア50	神奈川県	
	⑲	第3グランド	15:00	山梨マスターズ	山梨県	0	7	3	-	0	栃木教員マスターズ	栃木県	
	⑳	第4グランド	15:00	FC青山オーバー・フィフティ	東京都第2	2	0	0	-	0	FC船橋50	千葉県	

【戦績表】

【Aブロック】		山梨マスターズ 山梨県	栃木教員マスターズ 栃木県	FC浦和シニアO-50 埼玉県第2	ドリーム水戸シニアFC 茨城県	T・ドリームス50 東京都第1	試合数	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	ボーナス	順位	代表
1	山梨マスターズ 山梨県	○	○	○	△	0 - 0	4	10	3	1	0	10	1	9	2	2	3
2	栃木教員マスターズ 栃木県	●	●	●	●	0 - 7	4	0	0	0	4	1	17	-16	0	5	-
3	FC浦和シニアO-50 埼玉県第2	●	○	●	●	0 - 3	4	3	1	0	3	1	6	-5	2	4	-
4	ドリーム水戸シニアFC 茨城県	●	○	○	●	0 - 3	4	6	2	0	2	6	6	0	0	3	-
5	T・ドリームス50 東京都第1	△	○	○	○	0 - 0	4	10	3	1	0	12	0	12	1	1	2

【Bブロック】		クマガヤSC 埼玉県第1	FC船橋50 千葉県	FC大泉50 群馬県	横浜シニア50 神奈川県	FC青山オーバー・フィフティ 東京都第2	試合数	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	ボーナス	順位	代表
1	クマガヤSC 埼玉県第1	○	○	○	○	0 - 0	4	12	4	0	0	5	0	5	2	1	1
2	FC船橋50 千葉県	●	●	○	○	0 - 0	4	7	2	1	1	5	2	3	4	2	4
3	FC大泉50 群馬県	●	●	●	●	0 - 2	4	0	0	0	4	1	8	-7	5	5	-
4	横浜シニア50 神奈川県	●	●	●	●	0 - 2	4	3	1	0	3	2	5	-3	3	4	-
5	FC青山オーバー・フィフティ 東京都第2	●	△	○	○	2 - 0	4	7	2	1	1	4	2	2	3	3	-

2023年度 KTFA第18回関東O-60サッカー大会 結果

【試合会場】 押原公園天然芝グラウンド
 【試合時間】 予選リーグ(①~⑫):40分(20分-8分-20分)

押原公園人工芝グラウンド
 順位決定戦(⑬~⑯):40分(20分-8分-20分) + PK戦

試合日	マッチNo.	試合会場	キックオフ時間	対戦カード								備考欄	
				チーム名	都県名	計	前後	VS	前後	計	チーム名	都県名	
9/9 (土)	①	天然芝	10:00	習志野台クラブシニア	千葉県	4	3 1	—	0 0	0	SAITAMA/パルスFC60	埼玉県	A組予選リーグ
	②	人工芝	10:00	横須賀アズール60	神奈川県	5	2 3	—	0 0	0	山梨シニア	山梨県	A組予選リーグ
	③	天然芝	11:20	栃木大昭サッカークラブ	栃木県	0	0 0	—	0 1	1	渋谷区FCミドル60	東京都	B組予選リーグ
	④	人工芝	11:20	FC前橋60	群馬県	0	0 0	—	0 2	2	ラツツオス古河F.C.	茨城県	B組予選リーグ
	⑤	天然芝	12:40	習志野台クラブシニア	千葉県	3	1 2	—	0 0	0	横須賀アズール60	神奈川県	A組予選リーグ
	⑥	人工芝	12:40	SAITAMA/パルスFC60	埼玉県	1	1 0	—	0 0	0	山梨シニア	山梨県	A組予選リーグ
	⑦	天然芝	14:00	栃木大昭サッカークラブ	栃木県	0	0 0	—	0 1	1	FC前橋60	群馬県	B組予選リーグ
	⑧	人工芝	14:00	渋谷区FCミドル60	東京都	2	0 2	—	0 0	0	ラツツオス古河F.C.	茨城県	B組予選リーグ
9/10 (日)	⑨	天然芝	9:30	習志野台クラブシニア	千葉県	0	0 0	—	1 0	1	山梨シニア	山梨県	A組予選リーグ
	⑩	人工芝	9:30	SAITAMA/パルスFC60	埼玉県	0	0 0	—	0 1	1	横須賀アズール60	神奈川県	B組予選リーグ
	⑪	天然芝	10:50	栃木大昭サッカークラブ	栃木県	1	1 0	—	0 1	1	ラツツオス古河F.C.	茨城県	A組予選リーグ
	⑫	人工芝	10:50	渋谷区FCミドル60	東京都	0	0 0	—	0 0	0	FC前橋60	群馬県	B組予選リーグ
	⑬	天然芝	12:40	SAITAMA/パルスFC60 [A3位]	埼玉県	1	0 1	—	0 0	0	FC前橋60 [B3位]	群馬県	5・6位決定戦
	⑭	人工芝	12:40	山梨シニア [A4位]	山梨県	1	1 0	—	1 0	1	栃木大昭サッカークラブ [B4位]	栃木県	7・8位決定戦
	⑮	天然芝	14:00	習志野台クラブシニア [A1位]	千葉県	0	0 0	—	0 2	0	渋谷区FCミドル60 [B1位]	東京都	優勝決定戦
	⑯	人工芝	14:00	横須賀アズール60 [A2位]	神奈川県	0	0 0	—	0 0	0	ラツツオス古河F.C. [B2位]	茨城県	第3位決定戦

【戦績表】

		※勝ち(○):3点 分け(△):1点 負け(●):0点												
【A組】		習志野台クラブシニア 千葉県	SAITAMA/パルスFC60 埼玉県	横須賀アズール60 神奈川県	山梨シニア 山梨県	試合数	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
1	習志野台クラブシニア 千葉県		○ 4 — 0	○ 3 — 0	● 0 — 1	3	6	2	0	1	7	1	6	1
2	SAITAMA/パルスFC60 埼玉県	● 0 — 4		● 0 — 1	○ 1 — 0	3	3	1	0	2	1	5	-4	3
3	横須賀アズール60 神奈川県	● 0 — 3	○ 1 — 0		○ 5 — 0	3	6	2	0	1	6	3	3	2
4	山梨シニア 山梨県	○ 1 — 0	● 0 — 1	● 0 — 5		3	3	1	0	2	1	6	-5	4
【B組】		栃木大昭サッカークラブ 栃木県	渋谷区FCミドル60 東京都	FC前橋60 群馬県	ラツツオス古河F.C. 茨城県	試合数	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
1	栃木大昭サッカークラブ 栃木県		● 0 — 1	● 0 — 1	△ 1 — 1	3	1	0	1	2	1	3	-2	4
2	渋谷区FCミドル60 東京都	○ 1 — 0		△ 0 — 0	○ 2 — 0	3	7	2	1	0	3	0	3	1
3	FC前橋60 群馬県	○ 1 — 0	△ 0 — 0		● 0 — 2	3	4	1	1	1	1	2	-1	3
4	ラツツオス古河F.C. 茨城県	△ 1 — 1	● 0 — 2	○ 2 — 0		3	4	1	1	1	3	3	0	2

【順位決定戦】

【優勝決定戦】	【第3位決定戦】								【5位・6位決定戦】								【7位・8位決定戦】							
	チーム名	都県名	計	前後	VS	前後	計	チーム名	都県名	計	前後	VS	前後	計	チーム名	都県名	計	前後	VS	前後	計			
⑮ A1位	習志野台クラブシニア	千葉県	0 0	—	0 0	—	0	渋谷区FCミドル60	東京都	B1位														
⑯ A2位	横須賀アズール60	神奈川県	0 0	—	0 0	—	0	ラツツオス古河F.C.	茨城県	B2位														
⑬ A3位	SAITAMA/パルスFC60	埼玉県	1 1	—	0 1	—	0	FC前橋60	群馬県	B3位														
⑭ A4位	山梨シニア	山梨県	1 1	—	1 0	—	1	栃木大昭サッカークラブ	栃木県	B4位														

優勝:渋谷区FCミドル60

準優勝:習志野台クラブシニア

第3位:横須賀アズール60

第4位:ラツツオス古河F.C.

第5位:SAITAMA/パルスFC60

第6位:FC前橋60

第7位:山梨シニア

第8位:栃木大昭サッカークラブ

2023年度KTFA第11回O-70サッカー選手権大会 結果

※勝ち(○):3点 分け(△):1点 負け(●):0点

【Aグループ】		山梨シニア70 山梨県	埼玉シニア70 埼玉県	群馬FC70 群馬県	茅ヶ崎シニア70 神奈川県	勝 点	勝 数	分 数	負 数	得 点	失 点	得失 点差	FP	順位	
1	山梨シニア70 山梨県			○ 1 - 0	● 0 - 5	● 0 - 5	3	1	0	2	1	10	-9		4
2	埼玉シニア70 埼玉県	● 0 - 1			○ 1 - 0	△ 0 - 0	4	1	1	1	1	1	0	5	2
3	群馬FC70 群馬県	○ 5 - 0	● 0 - 1			● 1 - 3	3	1	0	2	6	4	2	1	3
4	茅ヶ崎シニア70 神奈川県	○ 5 - 0	△ 0 - 0	○ 3 - 1			7	2	1	0	8	1	7		1

予選リーグ順位決定方法 (勝ち点・得失・総得点・当該チーム結果・フェアプレーポイント:警告-1・1発退場-4・警告2回退場-3・警告後1発退場-5)

【Bグループ】		栃木大昭サッカークラブ 栃木県	WKU Over-70 東京都	千葉四十雀サッカークラブ 千葉県	茨城シニア70 茨城県	勝 点	勝 数	分 数	負 数	得 点	失 点	得失 点差	FP	順位	
1	栃木大昭サッカークラブ 栃木県			△ 1 - 1	△ 0 - 0	△ 1 - 1	3	0	3	0	0	0	0	2	
2	WKU Over-70 東京都	△ 1 - 1			○ 2 - 1	○ 1 - 0	7	2	1	0	4	2	2	1	
3	千葉四十雀サッカークラブ 千葉県	△ 0 - 0	● 1 - 2			△ 1 - 1	2	0	2	1	2	3	-1	くじ 引き にて	4
4	茨城シニア70 茨城県	△ 1 - 1	● 0 - 1	△ 1 - 1			2	0	2	1	2	3	-1		3

【順位決定戦】

【5位決定戦】 A面	群馬FC70 群馬県	A3位	3	1 - 0	0	茨城シニア70 茨城県	B3位	優勝	茅ヶ崎シニア70			FP	順位
				2 - 0				準優勝	WKU Over-70				
【7位決定戦】 B面	山梨シニア70 山梨県	A4位	1	0 - 0	0	千葉四十雀サッカークラブ 千葉県	B4位	第3位	栃木大昭サッカークラブ			FP	順位
				1 - 0				第4位	埼玉シニア70				
【決勝戦】 A面	茅ヶ崎シニア70 神奈川県	A1位	4	2 - 0	0	WKU Over-70 東京都	B1位	第5位	群馬FC70			FP	順位
				2 - 0				第6位	茨城シニア70				
【3位決定戦】 B面	埼玉シニア70 埼玉県	A2位	PK	0 - 0	PK	栃木大昭サッカークラブ 栃木県	B2位	第7位	山梨シニア70			FP	順位
				0 - 0				第8位	千葉四十雀サッカークラブ				

— フットサル委員会・連盟 —

栃木県フットサル連盟理事長 山口雄二氏が新たに就任

この春、栃木県フットサル連盟理事長に山口雄二氏（42）が就任しました。那須塩原市出身で過去には関東リーグにあったモランゴ栃木などで指導者として活躍。現在は栃木県フットサルリーグ1部のラゾスで監督を務める山口氏に3代目の理事長としての抱負を伺いました。

フットサルの魅力は、サッカーなどでプレーをする上で細かいボールタッチの技術が吸収できるということです。さらに公式戦は全て室内で行われるため、天候に左右されることなくプレーができます。私も大学時代からフットサルを始め、今も社会人チームでボールを蹴っています。

私が任期中に力を入れたいことは三つあります。まずは18歳以下、15歳以下、12歳以下のアンダーカテゴリーにおけるフットサルの普及、振興です。首都圏など競技が盛んな地域には水をあけられているのが現状で、まずはフットサルの知識を持っている指導者を増やしていくべきだと思っています。部活動の外部コーチなどでフットサルに理解のある指導者を育てられないか模索していきたいと思います。

2点目は栃木県フットサルリーグの再興です。リーグは男女ともに登録チーム数は微減傾向です。サッカーに比べると公式戦時の時間的拘束が長いなどの特徴を理解してもらい、PRをしながらチームを増やしていくことです。3点目は会場確保の安定化です。新型コロナウイルス禍で使える体育施設が大きく減り、以前のような競技環境には戻っていません。それでも徐々に体育施設の利用も再開され、公式戦のレギュレーションを以前のような形で整えられつつあります。他の都県だと会場が確保できず夜間に試合を行っているケースもありますが、栃木県は「日曜日の昼間の公式戦」にこだわって環境を整えていきたいです。

近年、全国大会が宇都宮市の日環アリーナで開催され、年明けには五つの全国大会が同アリーナで開催されます。大会補助員などで公式戦登録チームにはご負担をおかけすることになるかと思いますが、引き続きご協力をいただければと思います。よろしくお願ひいたします。

8年ぶり本県開催の関東女子選抜大会 2年連続の全国出場ならず

昨年、関東大会準優勝に輝き、本県史上初めて全国大会へ駒を進めた、女子フットサルの都道府県対抗大会「第15回全国女子選抜大会関東大会」。8シーズンぶりに9月9、10日と宇都宮市の日環境アリーナで開催されました。今回の本県選抜チームは関東リーグを戦うブラジニア、県リーグのアマーレオ峰FC、北那須リンダニーニヤ、足利・両毛ローザFC、ラッシュ高根沢から選手を選び、文字通り「オール栃木」で試合へと臨みました。しかし初戦で全国大会の上位常連の東京都選抜とぶつかることになり、0-6で敗戦。2年連続での全国大会出場はなりませんでした。しかしプレーでは随所に強豪チームを苦しめる場面があり、地元チームとして恥ずかしくない戦いを見せてくれました。関係者の皆さん、お疲れさまでした。



▲本県女子選抜チームの選手たち

U-18チャンピオンズカップ ファンタジスタ栃木が初代王座

フットサルには各地で行われているU-18リーグの全国王者を決める「U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ」という大会があります。毎年、夏に都道府県代表が決まる大会ですが、これまで本県は栃木県予選を開催してきました。大会が第8回を迎える今回、8月6日に宇都宮市の清原体育館で栃木県予選を「ワンデー」で初開催しました。

参加チームは國學院大学栃木高校と、15歳以下

の選手がメインのファンタジスタ栃木、ファンタジスタ栃木2nd。3チームがリーグ戦で戦い、ファンタジスタ栃木が初代王座に就き、関東大会出場を決めました。準優勝が國學院大学栃木高校、3位がファンタジスタ栃木2ndでした。



▲優勝したファンタジスタ栃木



▲準優勝の國學院大学栃木高校



▲3位のファンタジスタ栃木2nd

U-12バーモントカップ FC VALONが2連覇

バーモントカップ第33回全日本U-12選手権大会県大会が7月1、2日と宇都宮市の清原体育館で行われ、FC VALONが2連覇を飾りました。

栃木県少年サッカー連盟から栃木県フットサル連盟に大会運営が移管されて2年目の主要大会。地区予選を勝ち抜いた18チームが優勝を目指し熱戦を繰り広げました。FC VALONは1次リーグDブロックを2戦2勝で勝ち上がると、8強による決勝ラウンドのトーナメントも勝負強く勝ち上がり、決勝はJFC Wingに6-2で勝利しました。



▲優勝したFC VALON



▲準優勝のJFC Wing





▲3位のCAアトレチコ佐野



▲3位の野原グランディオスFC

技術強化委員会

燃ゆる感動 かごしま国体へ向けた栃木県トレセンU16活動報告

栃木県少年男子監督 高井 剛

【チームコンセプト】

「感謝」与えられた環境に感謝し、人を選ばず、自分に矢印を向け、全力でプレーする。
 「ゴールを奪う・ゴールを守る」日本一早い攻守の切り替えの中で、前線から鋭くボールを奪取し、素早くゴールを目指す。守備では背中を見せず、体を張った全員守備。

【2023年度スケジュール】

1・2・3月	県内U15選手選考（セントラル/中体連/各地区）/県内早生まれ選手選考/ 県外からの流入選手選考
4・6・7月	トレセンマッチデー（以下TMD）第1節～第3節
8月	強化練習会/遠征・国体関東ブロック予選
9・10月	TMD（順位決定戦）/燃ゆる感動 かごしま国体

【スタッフ】	【氏名】	【所属】	【資格】
監督	高井 剛	栃木県立宇都宮工業高等学校	JFA公認A級コーチ
ヘッドコーチ	金澤 祐介	栃木サッカークラブ	JFA公認A級コーチ
コーチ	金子 典央	佐野日本大学高等学校	JFA公認A級コーチ
コーチ	福田 康平	栃木県立烏山高等学校	JFA公認B級コーチ
コーチ	高橋 祐樹	矢板中央高等学校	JFA公認C級コーチ
GKコーチ	中島 健人	LIAALL GK ACADEMY	JFA公認B級コーチ
トレーナー	下斗米直紀	下斗米接骨院	柔道整復師

【練習環境】

TMD前の水曜日に栃木県グリーンスタジアムサブグラウンドにて練習会（19:00～21:00）を実施した。その他、堀田氏（成年国体監督）の協力により作新学院大学との練習試合も行い、試合経験を積むことができた。また、福田哲也氏を中心としたTSGの映像分析やFAコーチ楠本氏、YD種倉氏のサポートなどスタッフ以外の協力体制も有り難かった。

【TMD（45分×2） ①第1節（4/23） ②第2節（6/25） ③第3節（7/9） 結果・内容】

リーグ第4位（勝点2） ①対 千葉県 0-0 ②対 埼玉県 1-1 ③対 茨城県 0-3

・システム 1-4-4-2。唯一の得点はクロスのこぼれを豪快なミドルシュートで貴重な先制ゴール。失点はFKやCKが多かった。3試合ともにゲームの主導権は取れず、中盤がDFラインに吸収され、守

備の時間が長くなった。何度かカウンターで決定機を作ることはできたが、日本代表選手を擁するアントラーズユースで構成された茨城戦は、ノーチャンスだった。
国体関東ブロック予選に向けて、システム変更(3バックの採用)を決断した。

【強化遠征 ①8/1~8/3 (35分×2) ②8/10 (30分×3) 結果・内容】

①新潟県十日町フェスティバル 第4位 ・対新潟県 0-3 ・対三重県 0-1 ・対福島県 0-1

- ・システム 1-3-4-2-1。チーム事情でメンバーが揃わず、ラージグループの選手を招集した。攻撃では決定機を外すことが多く、守備では3バックの背後を取られる場面や、セットプレーで簡単にマークを外されての失点が目立った。

②静岡県時之栖 練習試合 対 神奈川県 0-3

- ・システム 1-3-4-2-1。前線からの積極的な守備でボールを奪う場面は作れたが、3バックの脇を簡単に取られた。

守備では、コンパクトさをいかに作るか、攻撃では奪った後に、ゴールまでのシンプルな道筋をどのように作るかなど、多くの課題が残った。

【国体関東ブロック予選 (35分×2) 8/15 結果・内容】

本大会出場ならず。 対 東京都 0-4 (前半 0-2 ・後半 0-2)

- ・システム 1-3-4-2-1。守備開始位置を設定したが、前線での運動量を作れず、前から奪うことができなかつた。自陣では1-5-4-1を作り、ゴールを守ろうとしたが、日本代表5名を擁する東京都のクオリティの高さにより、人はいるが簡単に背後を取られ、前を向かれるシーンを多く作ってしまった。チーム戦術うんぬんよりも圧倒的な個人戦術の差を痛感した。

【TMD順位決定戦 (45分×2) 9/24 結果・内容】

第7位 対 山梨県 6-1 (前半 2-1 ・後半 4-0)

- ・システム 1-4-4-2。東京都との敗戦から学んだこと、チーム戦術よりも、まずは攻守における個人戦術にフォーカスした。前線の選手は後ろの人のために、後ろの選手は前の人のために走ること。球際でバトルし、局面で2対1を作ること。ボールを奪った瞬間に相手から離れ、常にゴールを目指せる体の向きでボールを受けること。グラウンダーでの縦パスや3人目の動きを意識しながら連続して背後を狙うこと。これらを徹底させ、山梨県相手にゲームの主導権を奪うことができた。

【成果】

- ①選考会や練習会を含め、40回以上の活動の中で、栃木県のために頑張る選手140名を招集することができた。
- ②栃木県として、TMDにおいて勝ち点5を獲得できた。
- ③選手の頑張りとそれを支えるスタッフや保護者の尽力でチームに絆が生まれた。

【今後の課題】

- ①選抜チームの難しさ。チーム事情で選手・スタッフの招集が思うようにいかなかつた。所属チームとの綿密なスケジュール調整の必要性。ルーキーリーグなどの1年生大会とTMDとの連戦で選手が疲弊。万全の状態で臨めなかつた。
- ②栃木県が関東で勝ち抜くための戦略・方策を作り出せず、本大会に出場できなかつた。
- ③栃木県として、トレセンと国体の意義を共有できていない。何を優先させて、何を制限するのか?

～ 最後に ～

国体監督は初めての経験で荷が重かったが、栃木SC時代に県外から来た私を暖かく迎えてくれた栃木の方々に少しでも恩返しをしようと、与えられた環境の中で全力を尽くすことを誓つた。

結果として、自分の力の無さを痛感する場面が多く、代表選手たちにとって良い指導や環境を提供できているのか?

自問自答の日々が続いたが、最後まで明るく支えてくれたチームスタッフ、どんなに厳しい環境に置かれても決して弱音を吐かない栃木の選手達のおかげで頑張ることができた。

最後に、マイチームの活動もありながら、選手派遣に協力してくれた各チーム関係者、練習のサポートや試合会場に足を運んでくれた県サッカー協会の方々、国体活動にご協力くださった保護者の皆様、そして、私をいつも勇気づけ支えてくれた家族に感謝し、2023年度栃木県トレセンU16の活動報告としたい。



多くの挫折と少しの成功の繰り返し＝成長
1年間ありがとうございました 高井 剛

国体活動報告

栃木県トレセンU16女子サブチーフ 小林 瞳美

今年度、栃木県トレセンU16女子のサブチーフを務めております小林瞳美です。今年度で2度目になるサッカー少年女子カテゴリーの大会結果および活動報告をさせていただきます。

1. チーム方針

関東ブロックでの目標：鹿児島国体に出場（ベスト4以内）

チーム戦術：ハイプレス（ボールを奪う）

ビルドアップ（認知・判断・実行）

セットプレーの攻防（ゴールを奪う・ゴールを守る）

3月19日と4月2日の選考会にて、栃木県トレセン女子U-16（ラージグループ）としての選手を28名選考した。選考後の練習では、ヘディングや胸コントロールなど、浮き球に対するプレー（個人技術）やブロック（ゾーン1の守備）やカウンターの攻防（個人戦術・グループ戦術）を行った。具体的にはビルドアップの方法（ローテーション）、ハイプレスの方法、セットプレーの攻撃、守備（配置、役割）などチームとしての狙い（チーム戦術）を共有した。トレーニング前の意識付けや、トレーニングや試合後の振り返りに、映像を取り入れたミーティングを多く行った。8月には静岡県で2泊3日の強化合宿を行い、JFAアカデミー福島の選手と合同練習や練習試合を実施した。

また、とちぎスポーツ医科学センターの協力のもと、トレーニングや試合中の走行距離を測定し、選手一人ひとりのプレー強度を明確に数値化した。

2. 国体関東ブロック大会の様子

1回戦 VS 埼玉 @埼玉スタジアム第2グラウンド

■ 戰い方

【攻撃】スペースを見つけて素早く出ていく
セットプレーをとる

【守備】基本的にボールにプレッシャーをかけ続ける
押し込まれたらブロックを作る

■結果 合計 0-7 (前半 0-2 ・ 後半 0-5)



O J F Aアカデミー福島との合同練習

3. 成果と課題

☆攻撃

【成果】

- ・浮き球に対するプレーの技術が上がった
- ・セットプレーの完成度が高くなった

【課題】

- ・スプリント力が少ない（トレーニング強度が低い）
- ・サッカー理解に差がある（原理原則、個人戦術等）

☆守備**【成果】**

- ・ゴールを守る意識が高まった

【課題】

- ・高い位置で（誘導させて）ボールを奪う回数が少なかった



○関東ブロック大会1回戦

■所感

昨年の成果と悔しさを胸に再スタートした私たちは、「絶対に鹿児島国体に出場する！」という強い気持ちを持って取り組んできた。残念ながら関東トレセンリーグでは3戦全敗となってしまったが、関東のレベルの高さを体感でき、個人やチームの課題が明確になった試合だった。

カテゴリー代表選手が前線に揃う埼玉県代表に対し、中学生が多い栃木県（高校生4名、中学生11名）は、数的優位でボールを奪う場面を作り、相手よりも多くスプリントしてカウンターでチャンスを狙ったかった。個々の技術や身体能力に差があることは想定していたが、前半無失点で試合を折り返すことができなかつたのは苦しかった。ハーフタイムにはボールを保持しながら積極的に前に出ていく事を伝え、後半はゴールを狙うシーンが増えたが、相手の勢いも止まらなかつた。プレーの強度（運動量とスプリント回数）をもっと上げなければ、得点に繋がるチャンスにならないと痛感した。しかし、選手一人ひとりが『栃木県代表』というプライドと誇りを持って戦い、1点でも取り返しにいこうとする姿勢や、最後まで諦めず走り抜いた選手達は逞しかつた。来年こそは関東ブロックを突破し、本国体出場を掴みたい。

関東ブロックを勝ち抜くには、高校年代の選手層を厚くすることが必要不可欠である。毎年のことではあるが優秀な選手が県外に進学してしまうので、栃木県の高校サッカーやクラブユースの強化が課題であると感じている。来年度は栃木県の女子サッカーを発展させる為にも、多くの高校年代選手に参加してもらい、栃木県を盛り上げてほしい。更に、他カテゴリーとも連携を密にとり、国体に向けて逆算した育成に取り組みたい。

4. 結びに

選手を派遣してくださった各チームの監督・スタッフの方々、遠征や練習などに送迎してくださった保護者の皆様、大会運営や様々な場面でチームをサポートしてくださった県協会および女子連盟の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



審判委員会

にらさきサッカー フェスティバルに参加して

サッカー2級審判員 伊藤慶太

2023年7月15日（金）～17日（月）にかけて、「令和5年度第42回武田の里にらさきサッカーフェスティバル」に栃木県審判員3人の内の1人として参加致しました、白鷗大学教育学部3年で同大学サッカーチームの伊藤慶太です。このような大会に参加することができて大変嬉しく思います。

大会名の通り山梨県韮崎市で開催される大会。韮崎市は甲府盆地の北西端に位置している。そのため盆地特有の暑さと湿度に3日間とも苦しめられた。肉体的にも精神的にも辛い、非常に過酷な大会である。主審2試合、副審3.5試合、第4審1試合を私は担当した。初日7月15日、成立学園1 vs 0 藤枝明誠（担当：主審、アセッサー：羽石 剛 氏・栃木県）。オフサイドの見落としが複数回あったことが課題として挙げられる。副審のシグナルに気が付くタイミングが遅かった。プレーに集中しすぎたためにオフサイドへの意識が全くなかったこと、副審の位置が間接視野にも入っていないことが原因として挙げられると考えた。改善には、体の向きを副審側へ少し変えることもあるが、何と言っても私は「オフサイドの可能性有り」という「意識」の部分が重要であると考える。レフェリーサイドからクロスボールが上がってくる時のポジションについても修正するべきである。レフェリーサイドへ寄りすぎると、ゴール前の状況やクロス対応DFのハンドを見づらい。PA角よりも中央寄りにポジションを取ることも一つの策であろう。頭同士の衝突時の対応についても改めて学べた。レフェリーは駆け寄っても心配すことしかできない。それであれば、彼らに駆け寄る前からベンチスタッフを呼んで早急に対応を任せることが一番であるということが分かった。選手の安全確保、瞬時の判断が大切である。3日目17日、韮崎0（6PK5）0三浦学苑（担当：主審、アセッサー：鈴木 武明 氏・栃木県）。FK再開時のポジショニングについてアドバイスをもらった。キッカーの「利き足」によって立ち位置を変える。現在も選手としてプレーしている私にとっては非常に納得感があった。FK再開時、PA中央付近に位置することも時と場合によって実践したいと思う。正当なチャージであると判断してノーファールにした場面があったが、やっぱりファールであった

と試合後に思った。結構激しいコンタクトであった。プレー1つで試合の熱量や雰囲気が大きく変化するおそれもあるのだと改めて身を引き締めた。

試合を終えると宿舎「シャトレーゼホテルにらさきの森」に戻る。夕食後からは講義を受けた。2日目16日夜の西インストラクターによるFKマネジメントについての講義が特に印象に残った。15日に主審を務めた際の自身の反省としてFKマネジメントが挙がった。FKマネジメントの手順を問われた際、「ポイントの指示」「壁を近づかせない」ことの2つしか答えられなかった。手順をグループで話し考え、そのあと参加者全体で手順をまとめた。

「1反則とその位置の見極め 2プレーを停止し、シグナル 3負傷への対応 4懲戒の処置 5ポイントの指示・コントロール 6素早いFKを認める 7副審による援助 8守備側の壁コントロール 9競技者の位置を確認 10主審の位置をとる 11さらなる懲戒処置は必要か 12再開の笛 13動き出す」これを頭に入れておくことで、統一したアプローチが可能になり、チーム戦術へも対応できることを学んだ。3,4の順序は、私の考えとは逆であったが、その部分はパーソナリティであると思う。懲戒の措置、怪我人、自分が何を重要視しているかによって変わってくる。研修の最後、関東審判委員会 長田和久委員長が「悪いことをした選手はすぐに逃げる」と言っていた。これを踏まえれば、懲戒の措置がまずは不可欠である。基本となる順序はあるものの、自分の考えるベストを見つけて行いたいと考えた。

この度は貴重な体験をすることができました、関わってくださる全ての方々のお陰です。ありがとうございます。審判は辛いこともあります、やりがいも大きいです。これからも一生懸命、全力で頑張っていきます。



関東サッカー協会 審判研修会に参加して

2級審判員 荒木 明

2023年7月15日（土）から7月17日（月）まで、山梨県韮崎市にて武田の里にらさきサッカーフェスティバルが開催されました。栃木県からは私を含め3名の審判員が参加させていただきました。

関東審判委員長の長田氏からは、「この研修会を通して、ここに集まった審判仲間と情報共有をおこない、選手のために持っている力を存分に発揮して欲しい。試合中、主審が見えないときもある。特に疲れているときは何かが起きる。そのためにはチームがある。チームとしてのサポートが大切。暑い日が続くが、そこは変えられない。のために、試合前後の準備が重要になる。目指すところに、こだわりを持って取り組んで欲しい。」とのメッセージをいただき、改めて、審判チームの大切さを感じました。

プラクティカルと座学研修のテーマは、「正しい判定をするための動きとポジショニング」でした。いつなにを見るのか？優先順位を決める。俯瞰力も大切なこと。動きだしは、ボールホルダーより、受けてを意識することが需要である。グループワークでは、自分の考えと違う意見を多数聞きました。なにを意識するかで、動き出しとポジショニングがこんなに違うものなのか？と気付かせていただきました。

試合は3日間で、主審、副審、第4審、合わせて5試合務めました。

主審を務めた試合は、両チームともロングパスで一気に攻め込むカウンター型の戦術でした。自分の予期予測と違う展開になる場面が多く、どちらかというと、走らされてしまいました。インストラクターからは、サイドステップとバックステップを有効に使うことをアドバイスいただきました。前日のプラクティカルで指導を受けた「アドバンテージ」については、中盤のホールディングのファウルを良いポジショニングで判断できたため、アドバンテージを適用しました。結果、シュートまで繋がったことは良かったと思います。

今回、関東審判研修会へ派遣いただきました栃木

県サッカー協会審判委員会の皆さん、沢山の貴重な経験をさせていただき心より感謝申し上げます。

初日の天気は雨のち曇りでしたが、二日目からは、天候に恵まれ、気温もぐんぐんあがり、人工芝のグランドでは、気温40℃を超える時間帯もありました。この猛暑との戦いも、韮崎を堪能できましたことだと思います。

研修期間中、関東の2級審判員やアセッサーの方々との意見交換ができ、皆様の日頃の審判活動における留意点やサッカー感など非常に良い刺激を受けることができました。そして、県外審判員の仲間が増えたことも大きな財産です。この3日間での貴重な経験を栃木県での審判活動に還元できるように日々精進してまいります。ありがとうございました。



中央が筆者



右端が筆者

国体関東ブロック予選に 参加して

2級審判員 阿久津 駿

埼玉スタジアム2002第2グラウンド他において、8月14日～15日の期間で開催された「特別国民体育大会関東ブロック大会サッカー競技（少年男子）」に審判員として参加させていただきました。

審判員は、普段関東リーグや関東大学リーグの1部を担当している中から10名が選ばれ、大会前日の13日夕方に集合しました。今大会は2日間で4試合しかないので、「誰が主審を担当するのか」という予想を審判員同士でしていました。13日夜にチーフの手塚氏より翌日の割当が発表されました。「埼玉県vs群馬県」の主審に自分の名前があり、うれしさと緊張が同時に感じました。

試合当日の朝は、審判員とインストラクター全員が顔を合わせて健康観察と体操を行います。朝から緊張した面持ちだったのか、たくさんの方に声をかけていただきました。

試合会場は、埼玉スタジアム2002第2グラウンドで、天然芝のきれいなピッチでした。栃木県にもこのような天然芝のピッチが、より多く整備されることを願っています。

試合は、開催県として負けられない埼玉県と本大会に行くために負けられない群馬県の勝負で、技術と気持ちがぶつかり合う、とても面白い試合でした。国体の予選は、他の大会では感じられない各都県の意地やプライドもあり、代表として戦う姿勢が素晴らしいと感じました。その中でも、選手たちはフェアでタフにプレーしていたので、ほとんどファウルがありませんでした。結果的に70分間では決着がつかず、PK戦の末、群馬県が開催県の埼玉県を下し、本大会出場を決めました。

このような試合を主審として経験できたことは、今後の審判生活の中で財産になることだと思います。主審を担当したことに自信を持ちつつ、課題の改善に努めていきたいです。特に普段とは異なるカテゴリーを担当するときの判定基準やマネジメント、動きとポジショニングに意識を向け、幅広く担当できるように今後も精進していきたいと思います。

大会2日目は、他県の審判員の観戦研修を行い、今大会での役割を終了しました。

今大会に参加して、主審として経験できることはとてもうれしく感じました。課題もありますが、

このような大会で再び笛が吹けるようにパフォーマンスを上げていきたいと思います。また、他県の審判員とも意見の交流ができたことがよかったです。普段の審判での悩みや判定に対する考え方、仕事と審判と家庭との両立の仕方など話の内容は多岐にわたりました。このような機会もコロナ禍ではなかったので、久々に楽しい日々を送ることができました。

最後に、このような経験ができたのも、日々ご指導くださっている栃木県の審判員やインストラクターの方々のおかげです。この場をお借りして感謝申し上げます。今後ともよろしくお願ひいたします。

特別国民体育大会関東ブロック 大会（成年男子）に参加して

審判員 森田秀一

2023年8月19・20日に埼玉県で行われた表題の大会に参加させていただきました。この大会は関東審判員研修会の一つとなっており、審判員は8月18日から前泊し、講義等の研修を受けて当日を迎えます。成年男子のカテゴリには、関東から14名の審判員が招集を受け、計5試合を担当しました（少年男子カテゴリは、別日程で実施されています）。

そのうち、8月19日の神奈川県vs東京都の試合を副審として担当しました（写真）。会場である埼玉県の熊谷市は、全国的に暑いことで知られ、試合当日も9:30キックオフであったにもかかわらず、WBGT値が非常に高い環境となりました。試合前のマッチミーティングでも、暑さについて説明があり、両チーム・審判員を含めた運営で、試合中に体調が悪くなった選手がいないかどうか等の安全に関する共通見解がありました（クーリングブレイク適用試合）。試合は、大きな問題なく進み、審判団も体調不良を起こすことなく、無事に試合を終結させることができました。

研修では、2日間で複数のインストラクターから講話をいただきました。初日には、研修のテーマである「正しい判定をするための動きとポジショニング」に向けて、“何を見たいのか”、“見たいものを見にいく”ことについて、模擬フィールドを用いて議論しました。「良いポジションにいたとしても、ただそこにいるだけでは見えない判定がある」ことについて、何を見たくてそこにい

くのか、何をみたいからどの位置から見るべきなのか、ポジショニングをする際の考え方について、他の審判員の意見を聞きつつ、それぞれの審判員の見解を示しました。今シーズンに、良いポジションにいたものの、視点（フォーカス）を事象（足のコンタクト）とは異なる位置（腕を用いたホールディング）についていたことで、正しい情報をもとに見極められなかつたことがあったことから、それぞれの状況で見るべきポイントを整理することは重要であると改めて考えました。

また、打ち合わせの重要性に関する講話では、「あなたが主審（副審）の場合、あなた自身のような副審（主審）を選びますか？」の質問から始まり、普段どのように打ち合わせをしているか模擬的に行った。意見として多く挙がったのは、「得点を含むKIに対する監視分担、タッチジャッジとオフサイド監視・フラッグアップの手順、ARが意見を試合中に表現すること、困っている場面のサポート、過去のエラ一体験談と対策、主審の苦手・弱点の内容と支援、相手(副審が慣れていない大学生の場合等)の力量に応じた打ち合わせのレベル分け」等でした。初対面の審判員と組むことは多くありますが、あまりにも多くの情報を一度に共有すると漏れが出てくることから、優先順位をもとに情報を絞って伝えることの重要性を学びました。

それ以外の講話では、最近の審判員は、フィジカルをベースとした動きの精度が求められていること、最終的にマネジメントが必要な場合においても、パーソナリティが重要であることの指導を受けました。基本があることを前提にはなりますが、自分の色をどの場面で発揮するかが、今後の課題となる審判員が多いことを伝えられ、それぞれの審判員があらためて「審判員像」を整理しました。

最後に、普段同じカテゴリ審判員が4名で組む試合はないため、私が担当した試合においても、お互いにワクワク（ある意味ドキドキ）しながら試合に臨みました。それぞれ過ごしてきた経験や背景・仕事が異なり、それでも審判員という道に関わりながら自己研鑽を積む同志に触れる機会は特別なものだとあらためて感じました。サッカーを支える一員として、関東だけでなく県内含めて多くの審判員の方と経験を共にすることで、少しでも力になれるように、これからも活動に力を入れ、恩返しできるようにしていきたいと思います。



レフェリーアカデミーの紹介

レフェリーアカデミー担当 原 崇

栃木県FA審判委員会では、今年度から23歳以下のサッカー3級審判員の希望者を対象とした「レフェリーアカデミー」という育成事業を始めました。審判に関心を持ち始めた若手を発掘し、上級審判員への昇級をサポートすることが目的です。

年度始めに募集したところ、男性・女性がそれぞれ3名ずつ合わせて6名の審判員から申し込みがありました。受講生のコーチ役は、数年前まで開講していました「トップレフェリーセミナー2」から育ったJリーグ・WEリーグ担当審判員が中心です。審判技術の基礎・基本をサポートしています。

アカデミーのカリキュラムは以下の通りです。

- ・実技指導
- ・競技規則テスト
- ・映像クリップを用いたオンラインでの勉強会
- ・フィットネスチェック
- ・Jリーグ観戦研修

将来的には、審判の立場で栃木県のサッカー界をリードできる人材の育成を目指しています。申込条件は、23歳以下のサッカー3級審判員です。興味がありましたら、下記アドレスまで問い合わせください。

栃木レフェリーアカデミー：

tfa.refereeaca@gmail.com

基本方針

Principles

**自立****independent**

誰かに保護されているが、自分の力でやりくりできるようになる状態。

正直に誠実に**honest**

失敗から何を学ぶか。将来の糧にすることができるか。

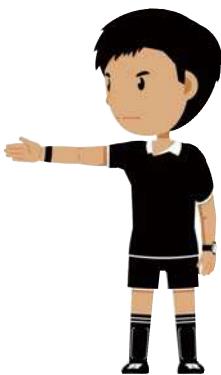
自己啓発**Self Development**

学業、仕事、プライベートで与えられるだけでなく、自らの意思によって。

真岡カップでの実技研修



Jリーグ観戦研修



グラスルーツ委員会

グラスルーツ委員会より

委員長/手塚貴子

2023年度のグラスルーツ委員会は、昨年度から新しい委員会として本格的に事業展開をして来ましたが「JFAグラスルーツ宣言」の趣旨に基づき、委員会として設定した目的をより具体的に進めていくために、組織体制を一部改編して新たな取り組みをしていくことにいたしました。そして、引き続き各種別や他の委員会・連盟との連携強化と、新たに各地区FA事務局やキッズフェスティバル担当者との連携を密にして、地域が潤うこと=栃木のサッカー全体の発展を目指します。

◆新たな試み◆

◎地区開催の普及施策

- ①JFAキッズフェスティバル（未登録者対象）地区開催（9地区）
- ②キッズリーダー養成講習会地区コース開催（9地区）
- ③自治体や地区FAと連携したウォーキングフットボールの普及

グラスルーツ委員会発足の目的

今まで、各委員会や連盟がそれぞれ積み上げて来た普及事業を、県全体で、各種別が一緒になって考え、関わる仲間を増やし、サッカーを生涯続けられる（関われる）環境を整え、サッカーファミリーを増やすこと。

◎目的を達成するためにより具体的な対策・施策が必要

- ①各種別が一緒になって考える組織体制をつくる。
- ②関わる仲間（キッズリーダー、インストラクター、巡回指導員、運営スタッフ）を増やす計画を立て、実行する。
- ③各年代でサッカーを続けられる環境（が身边にあること/地区レベル）を整える。
- ④未登録者から登録者を増やすための働きかけ・仕掛けを考え、実行する。

※上記以外にも障がい者サッカーやなでしこひろばなどの事業拡充もしていくので、次回報告させていただきます。



2023年度前期 フェスティバル関連事業報告

フェスティバルグループリーダー
大森美幸

2023年度、グラスルーツ委員会として新たな取り組みを開始いたしました。

JFAキッズフェスティバルの開催を各地域にて開催する事により、身近でのサッカーの普及が目指せるよう地域の皆様の前向きな協力により進んでおります。

今年度も普及にとても大切な「キッズ・女子」を中心とした取り組みや全ての年代が挑戦できるウォーキングフットボールなどの展開を徐々に考えていきたいと思います。

前期の主な活動報告をいたします。

- ◆ JFAキッズフェスティバルの地区開催
- ◆ 女子全般のフェスティバル開催

◆JFAキッズサッカーフェスティバル2023 in 那須塩原

開催日：令和5年6月4日（日）

会場：那須塩原市

「キヨクトウ青木フィールド」

参加者：小学1年生～3年生（男女）の未登録者と保護者

内容：サッカー未経験/未登録者児童と保護者
2人1組で行うフェスティバル

協力：栃木県少年サッカー連盟
北那須少年サッカー連盟



◆JFAキッズサッカーフェスティバル2023

in 宇都宮

開催日：令和5年9月18日（月・祝）

会場：宇都宮市「宇都宮市サッカー場」

参加者：小学1年生～3年生（男女）の未登録者と保護者

内容：サッカー未経験/未登録者児童と保護者
2人1組で行うフェスティバル

協力：栃木県少年サッカー連盟
宇都宮サッカー協会



◆JFAガールズサッカーフェスティバル2023栃木 (U-12地区交流戦・中学生女子3種登録選手)合同開催

開催日：令和5年7月2日（日）

会場：宇都宮市「県総合運動公園サッカー場」

参加者：4種・3種登録女子選手

内容：4種・3種登録女子選手の交流戦

※今年度2回開催予定(次の年代へ繋げ
ようをスローガン)

◎次回開催は12月17日（日）予定



巡回指導報告

巡回指導グループサブリーダー
久米洋司

キッズ巡回指導は、県内の幼稚園・保育園等を対象に巡回指導スタッフが現地に赴き、体を動かすことの楽しさ、サッカー（スポーツ）の楽しさを伝える事業です。

本事業は、幼稚園・保育園等の単位で申込をしてくる為、サッカーを知らない子どももサッカーがあまり好きでない子どもも、そして男女関係なく、サッカー（ボール遊び）を体験することとなります。まさにサッカー普及の最大のチャンスの事業です。

2023年度は、巡回スタッフ15名程度が概算で県内100施設240回の巡回指導実施、延べ人数6000名ほどの子どもたちと触れ合う予定となっていますが、この活動を一層広め栃木県のどこに生まれても必ずサッカーと触れ合う機会があり、その後もキッズフェスティバルやなでしこひろばに繋げ、更にはサッカーを継続して行える環境（チーム活動等）に繋げる。そんな活動にして行けたら栃木県サッカー界の未来は一層明るくなってくると考えています。

【2023年度4月～9月までの実績】

- ・68施設
- ・122回
- ・延人数2985名

巡回指導の様子



◆JFAガールズサッカーフェスティバル in 那須塩原

開催日：令和5年9月17日（日）
会 場：那須塩原市「きらむぎサッカーパーク」
参加者：小学1年生～3年生の未登録者と保護者
内 容：サッカー未経験/未登録者の女の子と保護者2人1組で行うフェスティバル



◆登録拡大推進事業

「とちぎなでしこひろば」開催（通年）
①Disney Second touch 未登録者女子小学生
②大人女子（高校生以上）ウォーキングフットボール

※上記を開催しております。詳しくは県協会HPにて



2023キッズリーダー養成講習会報告

報告者：キッズチューターグループ
グループリーダー/シニアチューター
小林 一幸

○トヨタ各社社員向けキッズリーダー養成講習会
(TOYOTAキッズ巡回指導協働支援)

趣旨：実際に巡回指導を行うトヨタ各社社員に
キッズリーダー資格を取得してもらうこと
と、FAのキッズ活動方針を理解していく
だく。

- ①コース 6月15日（木）
- ②コース 7月13日（木）

会場は両日ともに宇都宮市清原体育館にて実施。

①コースは、14名（男6名、女8名）、②コースは、16名（男9名、女7名）が参加。

内容は、講義（1.5H）、実技：アイスブレイク、鬼ごっこ、動き作り、ボールフィーリング、ゲーム（1.5H）。

コロナ明けでの久しぶりの開催となりました。
今回は、女性が半数以上参加していただき、とて
てもぎやかで活気のある活動になった感じがしま
した。

参加者の方々は、サッカー経験や運動経験が少ない
方がほとんどでした。どんなことをするのか不安だった
ようですが、講義と実技を通して理解を深めて、安
心して楽しかったとのコメントをいただきました。



○北那須地区キッズリーダー養成講習会

日程：9月10日（日）

目的：6・8・10歳以下の選手・子どもたちに
関わる指導者・保護者で体を動かすこと
の楽しさを伝える指導者の養成を目的と
する。（JFAより）

会場：きらむぎサッカーパーク（きらサバ）

内容：講義（1.5H）、実技（1.5H）。非常に
コンパクトなカリキュラム構成で、誰もが
楽しんで学べる形で取り組む。

今年度からの取り組みで、初めての地域
開催。今回の参加者は7名（男性4名、女
性3名）と少なめだった。地域の活動や試
合などと重なったことが原因の一つとして
考えられる。今後、人数を集められるよう
な工夫が必要。実技の時間は少し暑くなり、
体調が悪くなる方も出たが最後まで参加出来
ました。全体的には、温かい雰囲気で楽
しくすすめられたのではないかと思いました。
また、今回受講した女性3名はその1
週間後に開催されたガールズフェスティバル
のスタッフとして活躍していただきました。





19年と2回開催し、コロナ禍での中断を経て、2023年度より再開しました。年4回程度、芳賀赤十字病院を会場に定期開催として、県内外より各回15名程度の受講をいただいています。一方でJFA+PUSHに関しては、2023年8月に初めて、真岡西中学校の教職員対象に開催しました。学校現場で遭遇することが多い、熱中症やアナフィラキシー、窒息の対応も含まれるため、受講していただいた教職員の皆様には好評をいただき、今後は生徒対象に定期開催を模索しています。（出張でのチームなどの開催も可能ですのでお問い合わせください。）

これらの活動は、47FAの中でも栃木県協会の精力的な活動が他県を凌駕しており、他県や日本協会からも高い評価を受けております。これも一重に、栃木県サッカー協会各位のこの分野へ高い意識の賜物と考えております。加えて、会場提供にご協力いただいている芳賀赤十字病院、指導にご協力いただいている県内外の医療関係者、消防関係者の皆様のご尽力により、活動が成り立っていることを重ねてお礼申し上げます。

活動を通じて、「プレイヤーズセンタードに基づいた安心安全なスポーツや学校現場を実現を栃木から」をモットーに、着実に一步一歩積み重ねて行こうと考えております。今後ますます多くの皆様にご参加いただきますよう、また受講いただいた皆様には、周りの皆様への受講をお薦めいただきますよう、ますますのご理解ご協力をよろしくお願ひいたします。



心肺蘇生法の様子



搬送方法の様子

2023年度 (公社) 栃木県サッカー協会賛助会員ご芳名 (敬称略) 2023年9月1日現在

NPO法人たかはら那須スポーツクラブ

飯山 勝一

小口 啓夫

小口竜太郎

株式会社 原建設

賛助会員募集のご案内

団体(法人)会員 1□ 30,000円/年

個人会員 1□ 10,000円/年

当協会ホームページより、申込書をダウンロードしてお使いください。

人と自然が調和した街づくりを目指す



鈴運メンテック株式会社



- 一般廃棄物の収集運搬
- 産業廃棄物の収集運搬
- 重機・一般貨物の運搬
- 倉庫の賃貸及び保管管理
- 高速道路の維持管理

〒320-0857
宇都宮市鶴田2丁目2番10号
TEL 028-648-6241(代)
FAX 028-648-8318
<http://www.suzuun.co.jp>

オフィシャルサプライヤー
ミズノ株式会社

- | | |
|---------|--------------------------|
| ■ 発行 | 公益社団法人 栃木県サッカー協会 |
| ■ 編集 | 公益社団法人 栃木県サッカー協会 記録広報委員会 |
| ■ 発行責任者 | 橋本 健一 福田 芳男 |
| ■ 印刷所 | 円印刷株式会社 |